

2024年度入学生用
(令和6年度)

履修の手引

鳥取大学工学部

目 次

1. 工学部の目的, 理念	1
2. 鳥取大学工学部学士課程教育に関する基本方針	1
3. 鳥取大学工学部各学科学士課程教育に関する基本方針	2
4. 鳥取大学工学部規則	5
5. 鳥取大学工学部履修規程	7
6. 鳥取大学工学部単位認定規程	16
7. 鳥取大学工学部における専門科目の成績評価に関する申合せ	18
8. 卒業研究の着手条件	19
9. 学位論文の評価基準	21
10. 履修の解説	22
(1) 単位について	22
(2) 履修申込みについて	22
(3) 授業の出席について	22
(4) 試験	23
(5) 成績について	23
(6) 成績評価に疑義がある場合の申立て制度について	24
(7) 休講	24
(8) 補講	24
(9) 所属学科教育課程表以外の科目の履修について	24
(10) 「飛び級」制度について	25
(11) 定期試験における学生証の提示について	25
(12) 試験において不正行為を行った者の取扱いについて	25
(13) その他	25
11. ハラスメント防止及び学生相談	26
12. 学生が学校保健安全法に基づく出席停止となり授業に出席できない場合の取扱いについて	27
13. 気象警報発令に伴う授業及び定期試験の取扱いについて	29
14. 鳥取大学単位認定規則	30
15. 鳥取大学における成績等の評価及びGPA 制度に関する要項	32
16. 鳥取大学工学部派遣学生・特別聴講学生規程	35
17. 鳥取大学工学部科目等履修生, 聴講生及び研究生規程	40
18. 教育職員免許状の取得について	41
19. 学級教員	42
20. 鳥取大学全学共通科目履修規則	43
21. 全学共通科目開設一覧表について	49
22. 鳥取大学における外国人留学生に対する授業科目等の特例に関する規程	49
23. 工学部各学科の概要	50

24. 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻-----	70
25. その他 -----	82

1. 工学部の目的, 理念

【工学部の目的】

本学部は、人類の福祉と社会の発展に資するため、主として工学の分野における学術研究と教育を行うとともに、社会が必要とする技術を開発し、それを駆使しうる人材を養成することを目的とする。

【工学部の理念】

工学技術の急速な発展は生産性の飛躍的な向上を可能とし、人類に多大な恩恵をもたらした。その一方で環境が破壊され、物質的豊かさの陰で人々の心の荒廃を招くといった問題をもたらしたこともまた事実である。

人類が将来にわたって豊かな生活を送るために、「地球資源を食い潰して繁栄するための技術」から「持続的に発展可能な社会をつくるための技術」への転換が必要とされている。また、「要素学」としての伝統的工学に加え、伝統的工学と他の学問分野の成果を課題解決のため融合利用する「総合学」としての工学が必要となってきた。しかし、その一方で入学者の基礎学力と目的意識・意欲の低下が見受けられるといった現状がある。

このような認識の下、近年の技術革新や産業・社会・経済構造の急激な変化に伴う社会からの要請に応えるためには、「人としての理想を求める工学の追究とそのプロセス、成果に基づく技術者・研究者の育成」が最も重要かつ必要であると考え、このことを工学部の理念とする。

2. 鳥取大学工学部学士課程教育に関する基本方針

鳥取大学工学部は、人類の福祉と社会の発展に貢献するため、主として工学の分野における学術研究と教育を行い、社会が必要とする技術を開発し、それを駆使しうる人材を養成することを目的としています。この目的を達成するため、学士課程における「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」を定めます。

【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学工学部では、鳥取大学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、各学科の教育課程を修め、所定の単位を修得したと認められ、卒業要件を満たし、次に掲げる能力を身につけた学生に対して、学士(工学)を授与します。

1. 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚する知的・道徳的能力
2. 基礎知識や専門知識に基づいて総合的・系統的・計量的に思考し、新技術開発や問題解決、情報活用を行う能力
3. 自律的・主体的・継続的に学習する能力
4. 論理的な記述、発表、討議などのコミュニケーション能力および他者と協働して実践する能力
5. 多様な価値観や地域特性、文化的背景の存在を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方ができる能力

【教育課程編成・実施の方針】

鳥取大学工学部では、本学部の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 全学共通教育と合わせて専門分野を中心とした特色ある教育課程を学科毎に編成します。

2. 課題解決能力や社会的実践力を形成するため、専門の技術・知識の理論的探求と実践的探求を促し、総合的な能力を向上させる場として卒業研究を行います。
3. 工学技術に関する倫理教育の機会、最新の技術動向や専門知識に触れる機会を提供します。
4. 他者と協働して能動的に実践する能力を形成するために、実験、演習等の対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

3. 鳥取大学工学部各学科学士課程教育に関する基本方針

<機械物理系学科>

【卒業認定・学位授与の方針】

機械物理系学科では、本学および工学部の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力・素養を身につけたときに学位を授与します。

1. 機械物理系学の基礎知識・専門知識を修得し、工学上の問題解決のためにそれらを活用しうる能力
2. 理論、実験、数値シミュレーションによる取組みを自ら計画し、結果を解析するとともに工学的に考察し、技術者として問題を解決する能力
3. 日本語によって自分の考えを正しく伝え、相手と意思の疎通を図る能力、さらに、英語でのコミュニケーションを行うための基礎能力
4. 技術者として高い倫理観を持ち、自分の仕事の社会的な意義と影響を理解する能力
5. 広い視野と社会的な良識を持ち、多様な価値観が共存しうることを踏まえ、人間・社会・環境に配慮した視点を用いる能力

【教育課程編成・実施の方針】

機械物理系学科では、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 初年次では数学、物理学、情報技術など学修の基礎となる科目を重点的に学びます。加えて、人文・社会、環境、生命に関する幅広い教養科目、外国語科目を学ぶとともに、大学入門ゼミ、キャリア教育科目を通じて将来を見据えた学修を各自に促します。
2. 学生の興味・関心に応じた複数のプログラムを用意し、各プログラムの特色ある必修科目の他、選択科目を主体的に履修することで専門性を高めていきます。専門の知識・技術を応用して、卒業研究と卒業論文の執筆・発表を行い、問題解決を図る総合的な能力を養成します。
3. 最先端の機械物理系分野の科学技術動向に触れる機会を準備し、技術者としての高い倫理観を養成する科目を提供します。
4. 実験、製図、演習、プロジェクト科目を通じて能動的な考察能力・課題解決能力を磨き、対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. 授業アンケートなどを通して学修成果を分析しながら教授法を検証し、教育方法の改善に努めます。

<電気情報系学科>

【卒業認定・学位授与の方針】

電気情報系学科では、鳥取大学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、本学科が定める教育課程を修め、所定の単位を修得したと認められ、卒業要件を満たし、次に掲げる能力を身につけた学生に対して学士(工学)を授与します。

1. 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚する知的・道徳的能力
2. 電気情報系分野の基礎知識や専門知識に基づいて総合的・系統的に思考し、新技術開発や問題解決を行う能力
3. 自律的・主体的・継続的に学習する能力
4. 論理的な記述、発表、討議などのコミュニケーション能力および他者と協働して実践する能力
5. 多様な価値観や地域特性、文化的背景の存在を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方ができる能力

【教育課程編成・実施の方針】

電気情報系学科では、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

1. 全学共通科目と合わせて電気情報系分野を中心とした教育課程を編成します。
2. 電気情報系分野の専門的な技術・知識を応用し、総合的な能力を向上させる場として卒業研究を行います。
3. 工学技術に関する倫理教育の機会、最新の技術動向や専門知識に触れる機会を提供します。
4. 他者と協働して能動的に実践する能力を形成するために、実験、演習等の対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

<化学バイオ系学科>

【卒業認定・学位授与の方針】

化学バイオ系学科では、鳥取大学工学部の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次の能力・素養を身につけた学生に学位を授与します。

1. 化学及び生物工学の基礎学力を身につけており、それらを統合して各専門分野の最新情報を理解し活用することができる。
2. 実験技術とデータ解析技術を身につけ、実験から得た事実を論理的に考察し、様々な課題を自ら解決できる。
3. 常に学問的興味・関心を失うことなく、修得した知識や技術を社会へ還元する意欲を有している。
4. 専門知識及び研究成果を、適切な言葉で筋道立てて表現できる。
5. 化学や生物工学のみならず、学際分野についても高い関心と疑問を持ち、自ら課題を探究し、解決する意欲を有している。
6. 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚することができる。

【教育課程編成・実施の方針】

化学バイオ系学科では、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 全学共通教育と合わせて化学バイオ系分野の専門教育を中心とした特色ある教育課程を編成します。
2. 課題解決能力や社会的実践力を形成するため、化学バイオ系分野の技術・知識の理論的探究と実践的探究を促し、総合的な能力を向上させる場として卒業研究を行います。
3. 工学技術に関する倫理教育の機会、専門知識の修得の一環として最新の技術・研究動向や専門知識に触れる機会を提供します。
4. 他者と協働して能動的に実践課題解決に向け専門知識を適用する能力を形成するために、実験、演習等の対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

<社会システム土木系学科>

【卒業認定・学位授与の方針】

鳥取大学工学部社会システム土木系学科では、鳥取大学ならびに工学部の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、次に掲げる能力・素養を身につけた学生に学位を授与します。

1. 人類の幸福や社会の持続可能性の視点をもった、技術者としての倫理観や判断能力
2. 基礎知識や専門知識に基づいて総合的・系統的に思考し、社会システム土木系分野に関する諸課題を解決できる能力
3. 課題や問題点を見出し、他者と協力してプロジェクトを計画・遂行する能力
4. 自らの考えを論理的に表現し、発表・討議できるコミュニケーション能力と、それにより他者と協働して実践する能力
5. 自主的・継続的に知識や技術を蓄積することができる能力
6. 多様な価値観や地域特性、文化的背景を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方ができる能力

【教育課程編成・実施の方針】

社会システム土木系学科では本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 全学共通教育と合わせて社会システム土木系分野の専門教育を中心とした教育課程を編成します。
2. 課題解決能力や社会的実践力を形成するため、社会システム土木系分野の技術・知識の理論的追求と実践的追求を促し、総合的な能力を向上させる場としてプロジェクト科目や卒業研究を実施します。
3. 工学技術に関する倫理教育の機会、最新の技術動向や専門知識に触れる機会を提供します。
4. 他者と協働して能動的に実践する能力を形成するために、実験、演習等の対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. カリキュラムマップ等により学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

4. 鳥取大学工学部規則

(総則)

第1条 鳥取大学工学部(以下「本学部」という。)に関する事項は、鳥取大学学則(平成16年鳥取大学規則第55号。以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(学科)

第2条 本学部には、次の学科を置く。

機械物理系学科

電気情報系学科

化学バイオ系学科

社会システム土木系学科

(附属施設)

第3条 本学部には、学則第10条の規定に基づき、次の附属の教育研究施設を置く。

ものづくり教育実践センター

附属クロス情報科学研究センター

附属地域安全工学センター

附属グリーン・サステイナブル・ケミストリー研究センター

附属先進機械電子システム研究センター

(講座・学科目)

第4条 本学部における学科目は、別表のとおりとする。

(教育研究上の目的)

第5条 本学部は、人類の福祉と社会の発展に資するため、主として工学の分野における学術研究と教育を行うとともに、社会が必要とする技術を開発し、それを駆使しうる人材を養成することを目的とし、各学科の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

一 機械物理系学科では、社会を支える先端のものづくりに関わる機械工学及び物理工学分野の教育のみならず、その多様な応用科目として航空宇宙工学やロボティクスの分野にも対応可能な教育研究を行い、機械工学の基幹技術と物理的な原理原則に関わる数学・物理のスキルでものづくりの最先端技術を担う人材を養成することを目的とする。

二 電気情報系学科では、高度情報社会を支える電気電子工学及び情報工学分野の双方について、ハードウェア技術からソフトウェア技術までの幅広い知識と技術を教育研究するとともに、これらを応用し多様化する情報社会の豊かな発展に寄与できる人材を養成することを目的とする。

三 化学バイオ系学科では、化学ならびに生命科学を基盤とする幅広い知識を有した上で、原子・分子から高次の生体まで化学とバイオの幅広い専門知識を教育研究し、化学・薬品・食品・エネルギーなどの産業と環境問題の解決に貢献する材料や製品の創製に応用できる能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

四 社会システム土木系学科では、国土と地域社会の計画・建設・管理に必要な社会基盤の設計・建設から社会の仕組みに関わる幅広い専門知識と技術を教育研究し、自然と調和した安全安心で持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(教育課程)

第6条 本学部における教育課程の授業科目、単位数及びその履修方法は、鳥取大学工学部履修規程(昭和40年鳥取大学工学部規則第2号)で定める。ただし、全学共通科目については、鳥取大学全学共通科目履修規則(平成5年鳥取大学規則第3号)の定めるところによる。

2 専門科目の授業は、講義、演習、実験及び実習により行う。

(単位の認定及び試験)

第7条 単位の認定及び試験について必要な事項は、鳥取大学工学部単位認定規程(昭和40年鳥取大学工学部規則第7号)で定める。

(卒業に必要な修得単位数)

第8条 本学部の卒業に必要な修得単位数は、次の表のとおりとする。

学 科	全 学 共 通 科 目					専 門 科 目	卒 業 必 要 修 得 単 位 数
	入 門 科 目	教 養 科 目	外 国 語 科 目	健 康 ス ポ ー ツ 科 目	小 計		
機械物理系学科	6 単位	26 単位以上	10 単位以上	1 単位以上	43 単位以上	83 単位以上	126 単位以上
電気情報系学科	5 単位	24 単位以上	10 単位以上	1 単位以上	40 単位以上	86 単位以上	126 単位以上
化学バイオ系学科	8 単位	20 単位以上	10 単位以上	1 単位以上	39 単位以上	87 単位以上	126 単位以上
社会システム土木系学科	6 単位	21 単位以上	10 単位以上	1 単位以上	38 単位以上	88 単位以上	126 単位以上

(卒業論文)

第9条 学生は、最終年次において卒業論文を提出しなければならない。

(転学科)

第10条 本学部の学生で、転学科を志願する者があるときは、教授会の議を経て、許可することができる。

(その他)

第11条 学則、鳥取大学学生守則(平成7年鳥取大学規則第26号)及びこの規則に定めるもののほか、本学部で必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が定める。

附 則 (平成元年5月29日から令和3年4月1日までの施行の附則は省略)

附 則

- 1 この規則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和4年3月31日以前の入学者については、この規則による改正後の鳥取大学工学部規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別 表

鳥取大学工学部学科目表

学 科 名	学 科 目 名
機械物理系学科	機械物理系学
電気情報系学科	電気情報系学
化学バイオ系学科	化学バイオ系学
社会システム土木系学科	社会システム土木系学

5. 鳥取大学工学部履修規程

第1条 学生は、4年以上在学し、全学共通科目及び専門科目についてそれぞれ履修し、鳥取大学工学部規則に定める本学部の卒業に必要な修得単位数を修得しなければならない。

第2条 全学共通科目の授業科目、単位数及び履修方法は、鳥取大学全学共通科目履修規則の定めるところによる。ただし、当該学科の定めるところにより、全学共通科目を専門科目の単位をもって充当することができる。

第3条 専門科目の授業科目、単位数及び履修方法は、別表1から4のとおりとする。

2 卒業研究は、各学科で定める条件を満たした者について、最終年次に行うものとする。

3 各学科の専門科目教育課程表以外の授業科目は、当該学科の定めるところにより、学科長の許可を得て履修することができる。

第4条 学生は、毎学期所定の期日までに、別表に基づき、履修しようとする授業科目を登録しなければならない。

2 学生が、1年間に履修登録することができる単位数の上限（以下「履修上限単位数」という。）は、原則として52単位とする。ただし、卒業に必要な単位に含めない科目については、履修上限単位数の対象に含めないものとする。

3 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、適切な履修指導が行われることを前提に、履修上限単位数を引き上げることができる。

4 前項の規定により引き上げることのできる履修上限単位数及びその基準となる学生の成績（GPA）は、各学科において定めるものとする。

第5条 （略）

附 則（昭和40年4月1日から令和3年4月1日までの施行の附則は省略）

附 則

1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。

2 令和6年3月31日以前の入学者については、この規程による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別 表 1～4（第3条関係）

専門科目教育課程表

注1 ◇印の授業科目の単位の認定は、合否をもって判定する。

2 授業科目の頭の数字は、改正年を西暦の下2桁で示す。

3 各学科とも授業科目及び履修年次、授業担当教員等については、若干変更することがある。

4 教職科目欄は以下のとおりである。詳細については、「教育職員免許状取得のための手引」を参照のこと。

数：数学の教科に関する科目に指定。（ ）内は、各科目区分を示す。

理：理科の教科に関する科目に指定。（ ）内は、各科目区分を示す。

情：情報の教科に関する科目に指定。A～Gは、各科目区分を示す。

工：工業の教科に関する科目に指定。

5 担当教員欄括弧内は、工学部以外の教員の所属を示す。

【地】地域学部，【医】医学部，【農】農学部，【研】研究推進機構，【地価】地域価値創造研究教育機構，【教】教育支援・国際交流推進機構，【情】情報戦略機構

別表1(専門科目教育課程表)(第3条関係)

機械物理系学科

分野	授業科目	プログラム別					単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考
		機械工学	航空宇宙工学	ロボティクス	物理工学	医工学		1年		2年		3年		4年				
								前	後	前	後	前	後	前	後			
数学	24 工業数学	◎	◎	◎	◎	◎	2		2							高江 恭平	数(解)	
	24 常微分方程式Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	2		2							榊原 寛史	数(解)	
	24 常微分方程式Ⅱ	△	△	△	△	○	2			2						大信田 丈志	数(解)	
	24 ベクトル解析	◎	◎	◎	◎	◎	2			2						田村 篤敬	数(幾)	
	24 フーリエ解析	△	◎	◎	◎	◎	2				2					後藤 知伸	数(解)	
	24 複素関数論	△	◎	◎	◎	◎	2				2					未定	数(解)	
24 確率統計学	◎	◎	◎	◎	◎	2		2							【教】井上 順子	数(確)		
計算科学	24 プログラミング基礎	◎	◎	◎	◎	◎	2		2							中井 唱	数(コン)	
	24 数値計算	△	△	△	◎	△	2			2						中井 唱	数(コン)	
	24 数値解析学	△	△	△	◎	△	2			2						土井 俊行		
	24 物理シミュレーション	△	△	△	○	△	2					2				榊原 寛史		
力学・材料力学	24 力学	◎	◎	◎	◎	◎	2		2							本宮 潤一	工	
	24 材料力学Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	2			2						小野 勇一	工	
	24 材料力学Ⅱ	◎	○	△	△	○	2				2					小野 勇一	工	
	24 弾性力学	○	◎	○	△	○	2					2				松野 崇	工	
流体力学	24 流体力学基礎	◎	◎	◎	◎	◎	2			2						葛山 浩	工	
	24 粘性流体力学	△	◎	△	◎	○	2					2				松野 隆 他	工	
	24 圧縮性流体力学	△	◎	△	○	△	2					2				酒井 武治	工	
	24 数値流体力学	△	○	△	△	△	2					2				酒井 武治	工	
統計・量子力学	24 統計力学	△	○	△	◎	△	2				2					灘 浩樹		
	24 量子物質科学Ⅰ	△	△	△	△	△	2				2					高江 恭平		
	24 量子物質科学Ⅱ	△	△	△	◎	△	2					2				小谷 岳生		
	24 確率過程	△	△	△	○	△	2				2					灘 浩樹	数(確)	
機械設計・加工・実験	24 機械工作実習	◎	△	◎	△	◎	1				3					佐藤 昌彦	工	
	24 機械設計製図基礎	◎	◎	◎	◎	◎	2		2							小野 勇一 他	工	
	24 機械設計製図Ⅰ	◎	△	◎	△	◎	1			3						音田 哲彦 他	工	
	24 機械設計製図Ⅱ	◎	◎	◎	△	◎	1				3					佐藤 昌彦 他	工	
	24 機械物理系実験Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	1				3					西 遼佑 他	工	
	24 機械物理系実験Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎	1					3				土井 俊行 他	工	
	24 機構学	◎	△	◎	△	○	2			2						西 遼佑	工	
	24 機械加工学	○	○	△	△	△	2					2				佐藤 昌彦	工	
	24 機械設計学Ⅰ	◎	△	◎	△	○	2				2					小野 勇一	工	
	24 機械設計学Ⅱ	○	△	○	△	○	2					2				小野 勇一	工	
24 機械製作法	◎	△	△	△	△	2					2				佐藤 昌彦	工		
電磁気学	24 電磁気学Ⅰ	△	○	△	◎	◎	2				2					古川 勝		
	24 電磁気学Ⅱ	△	△	◎	○	△	2					2				古川 勝		
	24 電気電子工学概論	△	△	◎	△	○	2			2						中川 匡夫	工	
振動波動	24 振動工学	◎	◎	◎	◎	◎	2			2						田村 篤敬	工	
	24 振動波動の基礎数理	△	◎	○	◎	△	2				2					小谷 岳生	数(解)	
	24 連続体振動の数理	◎	△	◎	◎	○	2					2				松岡 広成	数(解)	
生命科学	24 人体の構造と機能					◎	2									【医】森 徹自		
	24 健康と生体情報					◎	2		2							【医】未定		
	24 組織学(工)					○	2					2				【医】椋田 崇生 他		組織学(医学部)の2重開講
	24 生理学(工)					○	4					4				【医】松尾 聡 他		生理学(医学部)の2重開講
	24 医工融合実践プロジェクト					◎	1				1					各教員		夏季休業中集中講義
熱エネルギー	24 熱力学	◎	◎	◎	◎	◎	2		2							原 豊	工	
	24 伝熱工学	◎	◎	△	△	○	2				2					小田 哲也	工	
	24 エネルギー変換工学	◎	◎	△	△	△	2			2						原 豊	工	
	24 熱機関学	○	○	△	○	△	2					2				小田 哲也	工	
航空宇宙	24 航空宇宙工学概論	△	○	○	△	△	2		2							酒井 武治 他	工	
	24 航空機力学	△	◎	△	△	△	2			2						松野 隆	工	
	24 推進工学	△	◎	△	△	△	2					2				葛山 浩	工	
材料・物性	24 材料科学Ⅰ	◎	◎	◎	○	◎	2			2						陳 中春	工	
	24 材料科学Ⅱ	◎	△	△	△	△	2				2					陳 中春	工	
	24 材料強度学	○	○	○	△	○	2					2				音田 哲彦	工	
	24 塑性加工	○	△	△	△	△	2					2				松野 崇	工	
	24 物性物理学	△	△	△	◎	△	2					2				小谷 岳生		
制御工学	24 制御工学Ⅰ	◎	◎	◎	△	◎	2				2					辻田 勝吉	工	
	24 制御工学Ⅱ	△	◎	◎	△	◎	2					2				中谷 真太郎	工	
	24 計測工学	◎	△	◎	△	△	2			2						辻田 勝吉	工	
ロボット	24 ロボット工学	△	△	◎	△	◎	2					2				辻田 勝吉	工	
	24 画像情報処理	△	△	△	△	△	2					2				三柴 教		
	24 人工知能	△	△	△	△	△	2					2				青木 工太		
	24 パターン認識論	△	△	△	△	△	2						2			木村 周平		

分野	授業科目	プログラム別					単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考	
		機械工学	航空宇宙工学	ロボティクス	物理工学	医工学		1年		2年		3年		4年					
								前	後	前	後	前	後	前	後				
実践教育	24 実践プロジェクトⅠ 24 実践プロジェクトⅡ	○	○	○	○	○	2					4		4			影山 智明 他 影山 智明 他	工 工	
特別講義	◇ 24 機械物理系特別講義Ⅰ ◇ 24 機械物理系特別講義Ⅱ	△	△	△	△	△	1					1		1			非常勤講師 非常勤講師		隔年開講 隔年開講
卒業研究	◇ 24 卒業研究	◎	◎	◎	◎	◎	10										各教員		
その他	24 技術者倫理 24 技術英語 ◇ 24 学外実習(インターシップ)	◎	◎	◎	◎	◎	2 2 1						2				非常勤講師 松野 隆 他 各教員	工 工	原則休業中
学部共通科目	24 国際実践科目Ⅰ 24 国際実践科目Ⅱ 24 英語でプレゼン						1 2 2							2			各教員 各教員 原 豊 他		全学年履修可能

◆以下の科目は、卒業に必要な単位に含めない。

教職関係科目	教育実習指導(中等) 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ		1 4 2														【地】鈴木 慎一朗 副学部長(教務) 副学部長(教務)		原則3年次に実施 " 4年次に実施
教職関係科目 (工業)	職業指導 工業概論 電気情報系実験Ⅰ 工業科教育法Ⅰ 工業科教育法Ⅱ		2 2 2 2 2					2			2		2				非常勤講師 非常勤講師 榎田 大輔 他 非常勤講師 非常勤講師	工 工 工 工(指導) 工(指導)	
教職関係科目 (数学)	数学学習指導設計 算数・数学学習指導論 数学学習指導分析Ⅰ 数学学習指導分析Ⅱ		2 2 2 2					2	2								【地】溝口 達也 【地】溝口 達也 非常勤講師 非常勤講師	数(指導) 数(指導) 数(指導) 数(指導)	

(1)◎は必修、○は選択Ⅰ(特に受講を推奨する選択科目)、△は選択Ⅱを表す。

(2)必修と選択Ⅰ・Ⅱを合わせて83単位以上修得すること。

①機械工学・ロボティクスプログラムの学生は、必修を61単位、選択Ⅰを6単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて22単位以上修得すること。

②航空宇宙工学プログラムの学生は、必修を65単位、選択Ⅰを6単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて18単位以上修得すること。

③物理工学プログラムの学生は、必修を62単位、選択Ⅰを6単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて21単位以上修得すること。

④医工学プログラムの学生は、必修58単位、選択Ⅰを6単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて25単位以上修得すること。

(3)学科長の許可を得て、6単位以内は学部共通科目、もしくは本表以外(全学共通科目を除く)の科目を履修し、修得した単位を選択の単位として充当することを認める。

(4)2年次のプログラム選択には、次の条件を満たしていなければならない。

1年次終了時までに、基礎13科目(基幹科目の必修7科目「微積分学Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、基礎物理学Ⅰ・Ⅱ、物理学実験演習」及び1年次の専門科目6科目「工業数学、常微分方程式Ⅰ、確率統計学、プログラミング基礎、力学、機械設計製図基礎」)のうち、8科目以上の単位を修得すること。

(5)(4)の条件を満たさない者は、2年次以上の専門科目を履修できない。

(6)3年次の専門科目履修には、次の2つの条件を満たしていなければならない。

①(4)に記載の基礎13科目のうち、12科目以上の単位を修得すること。

②2年次の専門科目のうち、8科目以上の単位を修得すること。ただし、学外実習(インターシップ)は含めない。

(7)開講学期、担当教員は変更となる場合もあるので、その都度掲示される時間割表を参照すること。

別表2(専門科目教育課程表)(第3条関係)

電気情報系学科

分野	授業科目	プログラム別				単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考	
		電気電子工学	コンピュータサイエンス	電子情報制御システム	医工学		1年		2年		3年		4年					
							前	後	前	後	前	後	前	後				
数学	24 数学基礎(複素数, 集合と論理)	◎	◎	◎	◎	2	2								吉村大観	和之光徳	工	
	24 確率・統計	○	◎	◎	◎	2			2						笹岡直人	和之光徳	工	
	24 離散数学	○	◎	○	○	2			2						吉村和之	相錫	工	
	24 微分方程式	○	○	○	○	2			2						吉村和之	和之匡夫	工	
	24 複素関数論	○	○	○	○	2			2						中川匡夫	儀雄	工	
	24 フーリエ解析	○	○	○	○	2			2						岩井儀雄		工	
電磁気	24 電磁気学Ⅰ(静電磁気・電流)	◎	△	△	○	2			2						市野邦男	邦男	工	
	24 電磁気学演習Ⅰ	◎	△	△	○	1			2						市野邦男	邦男	工	
	24 電磁気学Ⅱ(電磁誘導・電磁場)	◎	△	△	○	2				2					大観光徳	光徳	工	
	24 電磁気学演習Ⅱ	◎	△	△	○	1				2					大観光徳	光徳	工	
電子デバイス	24 熱力学・統計力学	○	△	△	○	2			2						阿部友紀	友紀	工	
	24 量子力学	○	△	△	○	2			2						阿部友紀	友紀	工	
	24 固体電子論	○	△	△	○	2				2					大観光徳	光徳	工	
	24 半導体Ⅰ(基礎)	○	△	△	○	2				2					松永忠雄	友紀	工	
	24 半導体Ⅱ(デバイス応用)	○	△	△	○	2					2				阿部友紀	和明	工	
	24 電気電子材料	○	△	△	○	2					2				赤岩和明		工	
	24 論理回路	◎	◎	◎	◎	2		2							東野正幸	克哉	情B	
24 電気回路Ⅰ(回路の諸定理)	◎	◎	◎	◎	2			2						近藤功	功	工		
24 電気回路演習Ⅰ	◎	◎	◎	◎	1			2						中西功	功	工		
24 電子回路基礎	◎	◎	△	◎	2				2					中西功	功	情B		
24 電子回路基礎演習	◎	◎	△	◎	1				2					中西功	功	情B		
24 電気回路Ⅱ(交流回路)	◎	◎	◎	◎	2				2					齋藤健太郎	健太郎	工		
24 システム電子回路	○	○	○	○	2					2				中川匡夫	匡夫	工		
24 電波工学(分布定数とアンテナ)	○	○	○	○	2						2			中川匡夫	匡夫	工		
電力	24 電気機器(回転機と静止器)	○	△	△	△	2				2					西村亮	亮	工	
	24 電力Ⅰ(発電電)	○	△	△	△	2					2				西村亮	亮	工	
	24 パワーエレクトロニクス	○	△	△	△	2					2				西村亮	亮	工	
	24 電力Ⅱ(3相交流・送配電)	○	△	△	△	2						2			近藤克哉	克哉	工	
制御	24 計測と制御	○	○	◎	◎	2			2						榎田大輔	大輔	工	
	24 制御工学Ⅰ(古典制御)	○	○	◎	◎	2				2					近藤克哉	克哉	工	
	24 制御工学Ⅱ(現代制御)	△	○	○	○	2					2				三柴数	数	工	
プログラミング	24 プログラミングⅠ	◎	◎	◎	◎	2	2								高橋健一	史暁	情B	
	24 プログラミング演習Ⅰ	◎	◎	◎	◎	1	2								竹森義人	義人	情B	
	24 プログラミングⅡ	◎	◎	◎	◎	2		2							高橋健一	健一	情E	
	24 プログラミング演習Ⅱ	◎	◎	◎	◎	1		2							榎田大輔	大輔	情E	
	24 データ構造とアルゴリズムⅠ	△	◎	○	△	2			2						清水尚生	尚生	情B	
	24 プログラミング演習Ⅲ	△	◎	○	△	1			2						川村尚生	尚生	情B	
	24 信号処理プログラミング演習	△	○	◎	◎	1				2					徳久雅人	雅人	情C	
	24 データ構造とアルゴリズムⅡ	△	◎	○	△	2				2					榎田大輔	大輔	情D	
計算機	24 計算機構成論Ⅰ	△	◎	○	○	2			2						吉川宣一	儀雄	情B	
	24 計算機構成論Ⅱ	△	○	△	△	2			2						岩井儀雄	尚生	情B	
	24 オペレーティングシステム	△	○	△	△	2				2					川村尚生	雅人	情D	
	24 ソフトウェア工学	△	◎	○	△	2				2					徳久雅人	儀雄	情C	
	24 組込みシステム基礎	△	○	○	△	2				2					岩井儀雄	正幸	情C	
	24 情報セキュリティ	△	○	○	△	2					2				東野正幸	仁一	情D	
	24 情報ネットワーク	△	○	△	△	2					2				村上仁一	正志	情D	
	24 並列・分散プログラミング	△	○	△	△	2					2				西山正志		情D	
	24 計算機構成論Ⅲ	△	◎	○	○	2									吉川宣一	儀雄	情B	
知識処理	24 形式言語とオートマトン	△	○	△	△	2			2						村田真樹	真樹	情B	
	24 言語とコンパイラ	△	○	△	△	2				2					村田真樹	真樹	情B	
	24 データベースと情報検索	△	○	△	△	2					2				村田真樹	真樹	情C	
	24 人工知能	△	○	○	○	2					2				青木工太	周平	情B	
	24 パターン認識論	△	○	○	○	2						2			木村周平	忠昭	情E	
	24 ヒューマンコンピュータインタラクション	△	○	△	△	2						2			清水忠昭		情E	
	24 数値計算法	△	○	○	○	2			2						木村周平	宣一	工	
数値計算	24 数値計画法	△	○	○	○	2					2				吉川宣一		工	
	24 情報理論	△	◎	○	○	2			2						村田真樹	和之	情D	
	24 信号処理工学	△	◎	◎	○	2				2					吉村和之	教	情D	
	24 画像情報処理	△	○	○	○	2					2				三柴教	直人	情E	
	24 情報通信工学	△	○	○	○	2					2				笹岡直人		工	

分野	授業科目	プログラム別				単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考	
		電気電子工学	コンピュータサイエンス	電子情報制御システム	医工学		1年		2年		3年		4年					
							前	後	前	後	前	後	前	後				
医工学	24 人体の構造と機能				◎	2										【医】森 徹自 【医】未定 溝端 知宏 溝端 知宏 松永 忠雄 松永 忠雄 【医】初沢 清隆	工	米子開講、夏季休業中集中講義
	24 健康と生体情報				○	2			2									
	24 生化学Ⅰ				○	2					2							
	24 生化学Ⅱ				○	2						2						
	24 医工融合実践プロジェクト				◎	1				1								
	24 医工技術概論				◎	1				1								
	24 生命科学概論Ⅰ				○	2					2							
語学	24 技術英語	◎	◎	◎	◎	1					『2』		【2】		吉川 宣一 他 ウィルシャー 他	工	【】は医工学プログラム履修者対象、【』】はその他のプログラムの履修者対象 米子開講、4年生で米子配属になる学生対象	
	24 医療英語Ⅰ				◎	1							2					
キャリア	24 工学倫理	◎	◎	◎	◎	2	2								非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 齋藤 健太郎 小野 勇一 他 学務委員 他	工 工 工 工 工	隔年開講 隔年開講 3年次夏季休業中	
	24 高電圧工学	○	△	△	△	1				1		1						
	24 電気法規及び電力施設管理	○	△	△	△	1				1		1						
	24 電気電子設計製図	○	○	△	△	2						4						
	24 機械設計製図基礎	○	○	△	△	2							2					
	◇ 24 学外実習(インターンシップ)	○	○	○	○	1												
概論	24 電気情報系総論	◎	◎	◎	◎	2	2								学務委員 他 田村 篤敬	工		
	24 機械概論	○	○	△	△	2							2					
実験・実習	24 電気情報系実験Ⅰ	◎	◎	◎	◎	2				6					榎田 大輔 他 齋藤 健太郎 他 竹森 史暁 村上 仁一 徳久 雅人 西村 亮 他	工 工 工 情D 工		
	24 電気情報系実験Ⅱ	◎	◎	◎	◎	2					6							
	24 ロボット制御実習	△	△	○	○	1						2						
	24 プログラミング応用演習	△	○	○	○	1						2						
	24 電気電子工学実験	○	△	△	△	2						6						
特別講義	◇ 24 電気情報系特別講義Ⅰ	○	○	○	○	1				1			1		非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	工 工 情A 情A	隔年開講 隔年開講 隔年開講 隔年開講	
	◇ 24 電気情報系特別講義Ⅱ	○	○	○	○	1				1			1					
	◇ 24 電気情報系特別講義Ⅲ	○	○	○	○	1				1			1					
	◇ 24 電気情報系特別講義Ⅳ	○	○	○	○	1				1			1					
卒業研究	◇ 24 卒業研究	◎	◎	◎	◎	10									各教員			
学部共通科目	24 国際実践科目Ⅰ					1									各教員 各教員 原 豊 他			
	24 国際実践科目Ⅱ					2												
	24 英語でプレゼン					2		2										

◆以下の科目は、卒業に必要な単位に含めない

教職関係科目 (工業)	ものづくり実践プロジェクト					2						4			影山 智明 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	工 工 工(指導) 工(指導)	
	職業指導					2					2						
	工業概論					2					2						
	工業科教育法Ⅰ					2					2						
	工業科教育法Ⅱ					2					2						
教職関係科目	情報教育法Ⅰ					2		2							【情】木本 雅也 【情】木本 雅也 竹森 史暁 【地】鈴木 慎一朗 副学部長(教務)	情F 情F 情A	原則3年次に実施 4年次に実施
	情報教育法Ⅱ					2		2									
	情報化社会と職業					1						1					
	教育実習指導(中等)					1											
中等教育実習Ⅱ					2												

- ◎は必修、○は選択Ⅰ(受講を勧める選択科目)、△は選択Ⅱ(その他の選択科目)を表す。ただし、選択科目は定員などにより受講者を制限する場合がある。その際は、△のプログラムの学生より○のプログラムの学生を優先する。
- 必修と選択Ⅰ・Ⅱを合わせて86単位以上修得すること。
 - 電気電子工学プログラムの学生は、必修を43単位、選択Ⅰを34単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて43単位以上修得すること。
 - コンピュータサイエンスプログラムの学生は、必修を44単位、選択Ⅰを33単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて42単位以上修得すること。
 - 電子情報制御システムプログラムの学生は、必修を39単位、選択Ⅰを38単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて47単位以上修得すること。
 - 医工学プログラムの学生は、必修を44単位、選択Ⅰを33単位以上、選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて42単位以上修得すること。
- 学科長の許可を得て、6単位以内は学部共通科目、もしくは本表以外の科目(全学共通科目を除く)を履修し、修得した単位を選択Ⅱの単位として充当することを認める。
- 2年次のプログラム選択には、次の条件を満たしていなければならない。
 - 1年次終了時までに、全学共通科目と専門科目を合わせて20単位以上修得すること。
- (4)の条件を満たさない者は、2年次以上の専門科目を履修できない。
- 開講学期、担当教員は変更となる場合もあるので、その都度掲示される時間割表を参照すること。
- 医工学プログラムの学生は、「技術英語」「医療英語Ⅰ」のいずれかを必ず修得すること。
- 医工学プログラムの学生は、分野が「語学」の科目は4年次に履修すること。4年次に米子配属の場合は「医療英語Ⅰ」を4年次に履修し、それ以外の場合は「技術英語」を4年次に履修すること。
- 分野が「医工学」の科目と「医療英語Ⅰ」は医工学プログラム以外の学生は履修できない。

化学バイオ系学科

分野	授業科目	プログラム別					単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考	
		合成化学	材料化学	グリーンケミストリー	バイオサイエンス	バイオテクノロジー		医工学	1年		2年		3年		4年				
									前	後	前	後	前	後	前				後
有機化学	24 有機化学Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2			2					松浦 和則 赤松 允顕	理(化)		
	24 有機化学Ⅱ	◎	◎	◎	◎	○	○	2			2					野上 敏材 稲葉 央	理(化)		
	24 工業有機化学Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	2			2					野上 敏材 伊福 伸介	工		
	24 工業有機化学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	2				2				松浦 和則	工		
	24 高分子化学	◎	○	○	○	○	○	2				2				伊福 伸介	工		
	24 有機合成化学	○	○	○	○	○	○	2					2			野上 敏材	工		
	24 超分子化学	○	○	○	○	○	○	2					2			稲葉 央	工		
	24 有機材料化学	○	○	○	△	△	△	2					2			【研】森本 稔	工		
生物科学	24 生化学Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2							溝端 知宏	理(生)		
	24 生化学Ⅱ	○	○	◎	◎	◎	◎	2		2						溝端 知宏	工		
	24 分子生物学	△	△	△	◎	◎	◎	2			2					佐藤 裕介	理(生)		
	24 生体分子化学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	2			2					未 定	工		
	24 生体分子化学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	2				2				未 定	理(化)		
	24 蛋白質工学	○	△	○	◎	◎	◎	2				2				八木 寿梓	工		
	24 構造生化学	○	○	○	○	○	○	2				2				永野 真吾	理(化)		
	24 創薬分子科学	○	○	○	○	○	◎	2					2			日野 智也			
生命医科学	24 人体の構造と機能						○	2		2						【医】森 徹自		医工学プログラムでは○の科目から2単位以上修得すること	
	24 健康と生体情報						○	2		2						【医】未定			
	24 生命科学概論Ⅰ						○	2			2					【医】初沢 清隆			
	24 医工融合実践プロジェクト						◎	1				1				未 定			
	24 医用高分子化学	○	○	○	○	○	○	2					2			松浦 和則			
物理化学	24 物理化学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	2	2							永野 真吾	理(化)		
	24 物理化学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	2		2						片田 直伸	理(化)		
	24 物理化学Ⅲ	○	○	○	○	○	○	2			2					辻 悦司	工		
	24 基礎量子化学	○	○	○	△	△	△	2			2					日野 智也	工		
	24 電気化学	○	○	○	△	△	△	2				2				増井 敏行	工		
	24 構造物理化学	○	○	○	△	△	△	2				2				坂口 裕樹	工		
	24 触媒化学	○	◎	○	△	△	△	2					2			南条 真佐人	工		
	24 触媒化学	○	◎	○	△	△	△	2					2			片田 直伸	工		
無機化学	24 無機化学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	2	2							坂口 裕樹 他	理(化)		
	24 無機化学Ⅱ	○	○	○	○	△	○	2		2						辻 悦司	理(化)		
	24 無機化学Ⅲ	○	○	○	△	△	△	2			2					増井 敏行	工		
	24 無機材料化学	○	◎	○	△	△	△	2				2				未 定	工		
	24 工業無機化学	○	○	○	△	△	△	2					2			薄井 洋行	工		
分析化学	24 分析化学Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2	2							増井 敏行 他	理(化)		
	24 分析化学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	2		2						薄井 洋行	理(化)		
	24 機器分析	○	○	○	○	○	○	2			2					花島 慎弥	工		
応用化学	24 グリーンケミストリー	○	○	◎	○	○	○	2				2				辻 悦司	工		
	24 物理・無機化学演習	◎	◎	◎	△	△	△	1					2			道見 康弘 山口 和輝	理(化)		
	24 有機化学演習	◎	◎	◎	△	△	△	1					2			赤松 允顕 佐々木紀彦	理(化)		
	24 応用化学ゼミナール	◎	◎	◎	△	△	△	2					2			化学系教員	工		
生物工学	24 微生物学	△	○	○	◎	◎	◎	2		2						大城 隆	理(生)		
	24 環境微生物工学	△	△	○	○	○	○	2			2					鈴木 宏和	理(化)		
	24 遺伝子工学	○	△	○	○	○	○	2				2				鈴木 宏和	工		
	24 食品微生物工学	△	△	○	○	◎	○	2				2				岡本 賢治	工		
	24 生化学実験計画法	△	△	△	○	○	○	2				2				本郷 邦広	工		
	24 酵素工学	△	△	○	○	○	○	2					2			岡本 賢治	工		
	24 植物分子工学	△	△	△	○	○	○	2					2			原田 尚志	工		
	24 バイオインフォマティクス	△	△	△	○	○	○	2					2			八木 寿梓	工		
	24 応用微生物学	△	△	○	○	◎	○	2					2			未 定	工		
倫理	24 工学倫理	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1								非常勤講師			
英語	24 基礎科学英語	△	△	○	○	○	○	2		2						非常勤講師			
	24 生物工学英語	△	△	△	○	○	○	2					2			バイオ系全教授			
特別講義	◇ 24 化学・バイオ工学特別講義Ⅰ	○	○	○	△	△	△	1					1			片田 直伸			
	◇ 24 化学・バイオ工学特別講義Ⅱ	○	○	○	○	○	○	1					1			非常勤講師			
	◇ 24 化学・バイオ工学特別講義Ⅲ	○	○	○	○	○	○	1					1			非常勤講師			

分野	授業科目	プログラム別					単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考	
		合成化学	材料化学	グリーンケミストリー	バイオサイエンス	バイオテクノロジー		医工学	1年		2年		3年		4年				
									前	後	前	後	前	後	前				後
実験演習	24 応用化学実験Ⅰ	◎	◎	◎	△	△	△			6						化学系教員	理(化実)		
	24 応用化学実験Ⅱ	◎	◎	◎	△	△	△			6					化学系教員	理(化実)			
	24 応用化学実験Ⅲ	◎	◎	◎	△	△	△				6				化学系教員	理(化実)			
	24 生物工学実験Ⅰ	△	△	△	◎	◎	◎			6					バイオ系教員	理(生実)			
	24 生物工学実験Ⅱ	△	△	△	◎	◎	◎				6				バイオ系教員	理(生実)			
	24 生物工学実験Ⅲ	△	△	△	◎	◎	◎					6			バイオ系教員	理(生実)			
	◇ 24 ものづくり実践プロジェクト	○	○	○	○	○	○						6	4		影山 智明			
24 化学・バイオプレゼンテーション演習	○	○	○	○	○	○							2		各教員		卒業研究着手後に履修		
卒業研究	◇ 24 卒業研究	◎	◎	◎	◎	◎	10								各教員				
学外実習	◇ 24 学外実習(インターンシップ)	○	○	○	○	○	1								学務委員		3年次夏季休業中		
学部共通科目	24 国際実践科目Ⅰ						1								各教員				
	24 国際実践科目Ⅱ						2								各教員				
	24 英語でプレゼン						2		2						原 豊 他				

◆以下の科目は、卒業に必要な単位に含めない。

教職関係科目(工業)	職業指導						2					2			非常勤講師	工	
	工業概論						2					2			非常勤講師	工	
	工業科教育法Ⅰ						2				2				非常勤講師	工(指導)	
	工業科教育法Ⅱ						2				2				非常勤講師	工(指導)	
教職関係科目(理科)	科学学習指導分析Ⅰ						2		2						【地】泉 直志	理(指導)	原則3年次に実施 " " 4年次に実施
	科学学習指導分析Ⅱ						2		2						非常勤講師	理(指導)	
	科学学習指導設計Ⅰ						2			2					非常勤講師	理(指導)	
	科学学習指導設計Ⅱ						2				2				【地】泉 直志	理(指導)	
	教育実習指導(中等)						1								【地】鈴木 慎一郎		
	中等教育実習Ⅰ						4								副学部長(教務)		
	中等教育実習Ⅱ						2								副学部長(教務)		
土地地質学						2		2						香川 敬生	理(地)		
地球環境情報工学						2						2		塩崎 一郎	理(地)		

- ◎は必修、○及び△は選択(○は受講を積極的に勧める科目。△は受講者数を制限する場合、必修または選択○となっているプログラムの学生が優先される科目)を表す。
- 必修と選択を合わせて87単位以上修得すること。医工学プログラム以外は、必修を33単位、選択を54単位以上、医工学プログラムは、必修を34単位以上、選択を53単位以上修得すること。
- 学科長の許可を得て、6単位以内は学部共通科目、もしくは本表以外の科目(全学共通科目を除く)を履修し、修得した単位を選択の単位として充当することを認める。
- 2年次のプログラム選択には、次の条件を満たしていなければならない。
1年次終了時まで、全学共通科目と専門科目を合わせて20単位以上修得すること。
- (4)の条件を満たさない者は、2年次以上の専門科目を履修できない。
- 担当教員は変更となる場合もあるので、掲示される時間割表を参照すること。

社会システム土木系学科

分野	授業科目	プログラム別		単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考
		社会 経営 工学	土木 工学		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
数学	22 常微分方程式	◎	◎	2		2							江本 久雄 他	工	
	22 数学総合演習	◎	◎	1		2							金氏 裕也 他	工	
	22 計算機システム演習	◎	◎	1	2								江本 久雄 他	工	
	22 数値解析	◎	◎	2		2							黒岩 正光 他	工	
	22 確率統計基礎	◎	◎	2		2							吉野 和泰 他	工	
	22 統計学	◎	◎	2			2						桑野 将司	工	
	22 現象解析基礎	◎	◎	2		2							福山 敬	工	
工学一般, 卒業研究	22 技術者倫理	◎	◎	2				2					宮本 善和	工	
	22 土木・社会経営プロジェクト	◎	◎	2				2					長曾我部 まどか 他	工	
	◇ 22 卒業研究	◎	◎	10									各教員		
	◇ 22 短期学外実習(インターンシップ)	△	△	1									学級教員		
都市・環境	22 景観工学	△	△	2			[2]				『2』		浅井 秀子 他	工	『』は社会経営工学プログラム履修者対象, 『1』は土木工学プログラム履修者対象
	22 応用測量学	△	△	2				[2]			『2』		野口 竜也 他	工	
	22 上下水道・水質管理	△	△	2						2			高部 祐剛	工	
	22 地震工学	△	△	2							[2]	『2』	香川 敬生 他	工	
	22 河川工学	△	△	2							2		三輪 浩	工	
	22 地球環境情報工学	△	△	2							2		塩崎 一郎	工	
	22 都市・地域計画学	△	△	2							『2』	[2]	福山 敬	工	
工学基礎 (社会システム系)	22 行動モデリング	◎	▲	2			2						谷本 圭志	工	
	22 プロジェクトマネジメント	◎	▲	2			2						宮本 善和	工	
	22 応用数学	◎	▲	2			2						吉野 和泰	工	
	22 数理計画法及び演習	◎	▲	3			4						細江 美欧	工	
	22 品質管理工学Ⅰ	◎	▲	2				2					南野 友香	工	
	22 ミクロ経済学	◎	▲	2				2					福山 敬	工	
	22 リスクマネジメント	◎	▲	2				2					太田 隆夫	工	
	22 経営工学概論	◎	▲	2				2					長曾我部まどか	工	
	22 財務・会計学	◎	▲	2					2				非常勤講師	工	
	22 社会調査プロジェクト	◎	▲	2			2						桑野 将司	工	
	22 プログラミング演習	◎	▲	1			2						福井 信気	工	
	22 データサイエンス	◎	▲	2				2					桑野 将司 他	工	
計画・設計	22 基礎水理学	◎	▲	2				2					太田 隆夫	工	
	22 公共政策論Ⅰ及び演習	◎	▲	3				4					谷本 圭志	工	
	22 公共政策論Ⅱ	◎	▲	2						2			谷本 圭志	工	
	22 廃棄物・環境リスク管理	◎	▲	2					2				高部 祐剛	工	
	22 応用システム工学及び演習	◎	▲	3				4					長曾我部まどか 他	工	
	22 環境計画学及び演習	◎	▲	3					4				宮本 善和	工	
	22 構造・材料学	◎	▲	2				2					太田 隆夫 他	工	
	22 防災計画工学	◎	▲	2					2				江本 久雄	工	
	22 ものづくり実践プロジェクト	△	▲	2						4			影山 智明	工	
	22 交通計画学	△	▲	2						2			桑野 将司	工	
	22 建設工学及び演習	△	▲	3						4			太田 隆夫 他	工	
	22 地方創生プロジェクト	△	▲	2				1					宮本 善和	工	
経営マネジメント	22 確率システム工学	◎	▲	2			2						非常勤講師	工	
	22 オペレーション・リサーチ	◎	▲	2						2			非常勤講師	工	
	22 ゲーム理論	◎	▲	2					2				谷本 圭志	工	
	22 応用数値解析及び演習	◎	▲	2					3				河野 誉仁	工	
	22 品質管理工学Ⅱ	△	▲	2						2			南野 友香	工	
工学基礎 (土木系)	22 固体力学基礎	▲	◎	2			2						西村 強	工	
	22 流体力学基礎	▲	◎	2			2						梶川 勇樹	工	
	22 測量学	▲	◎	2			2						野口 竜也 他	工	
	22 測量学演習	▲	◎	2			4						野口 竜也 他	工	
	22 構造力学Ⅰ及び演習	▲	◎	3			4						小野 祐輔 他	工	
	22 構造力学Ⅱ及び演習	▲	◎	3				4					谷口 朋代 他	工	
	22 建設材料学	▲	◎	2				2					黒田 保	工	
	22 コンクリート構造学及び演習	▲	◎	3					4				黒田 保 他	工	
	◇ 22 構造・材料実験	▲	◎	1					3				黒田 保 他	工	
	22 水理学Ⅰ及び演習	▲	◎	3					4				三輪 浩 他	工	
	22 水理学Ⅱ及び演習	▲	◎	3					4				黒岩 正光 他	工	
	◇ 22 水理学実験	▲	◎	1						3			黒岩 正光 他	工	
	22 土質力学Ⅰ及び演習	▲	◎	3			4						中村 公一 他	工	
	22 土質力学Ⅱ及び演習	▲	◎	3				4					西村 強 他	工	
	◇ 22 土質力学実験	▲	◎	1						3			西村 強 他	工	

分野	授業科目	プログラム別		単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考
		社会 経営 工学	土木 工学		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
調査・設計	22 土木地質学	▲	○	2			2						香川 敬生	工 工	『』は社会経営工学プログラム履修者対象、【】は土木工学プログラム履修者対象
	22 建設法規	▲	○	2			2						非常勤講師		
	22 建築製図	△	○	2			【2】			『2』			非常勤講師		
	22 物理探査基礎	▲	○	2			2						塩崎 一郎		
構造物解析・管理・保全	22 鋼構造学	▲	○	2					2				谷口 朋代	工 工 工 工 工 工 工 工 工 工	
	22 構造振動学	▲	○	2				2					谷口 朋代		
	22 コンクリート工学	▲	○	2					2				黒田 保		
	22 岩盤力学	▲	○	2					2				西村 強 他		
	22 地盤工学	▲	○	2				2					小野 祐輔 他		
	22 水工計画学	▲	○	2				2					三輪 浩		
	22 海岸工学	▲	○	2					2				黒岩 正光		
	22 土木計画学	▲	○	2				2					福山 敬 他		
	22 建設施工学	▲	○	2					2				中村 公一 他		
	22 数値力学解析	▲	○	2						2			和田 孝志		
実習・特別講義	◇ 22 学外実習	▲	○	2									学級教員	工 工 工 工	3年次夏季休業中 隔年開講 隔年開講 隔年開講
	◇ 22 土木特別講義Ⅰ	▲	○	1					1				非常勤講師		
	◇ 22 土木特別講義Ⅱ	▲	○	1						1			非常勤講師		
	◇ 22 社会経営工学特別講義Ⅰ	△	▲	1				1					非常勤講師		
学部共通科目	◇ 22 社会経営工学特別講義Ⅱ	△	▲	1				1					非常勤講師	工 工 工 工	隔年開講
	22 国際実践科目Ⅰ	△	△	1									各教員		
	22 国際実践科目Ⅱ	△	△	2									各教員		
	22 英語でプレゼン	△	△	2		2							原 豊 他		

◆以下の科目は、卒業に必要な単位に含めない。

区分	授業科目	プログラム別		単位数	週授業時間数								担当教員	教職科目	備考
		社会 経営 工学	土木 工学		1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
教職関係科目 (工業)	職業指導			2					2				非常勤講師	工 工 工(指導) 工(指導)	
	工業概論			2					2				非常勤講師		
	工業科教育法Ⅰ			2					2				非常勤講師		
	工業科教育法Ⅱ			2					2				非常勤講師		
建築士 関係科目	建築設計Ⅰ			2					2				非常勤講師	工 工 工 工 工 工 工 工	
	建築設計Ⅱ			2					2				非常勤講師		
	建築設計Ⅲ			2						2			非常勤講師		
	建築計画Ⅰ			2		2							浅井 秀子		
	建築計画Ⅱ			2		2							非常勤講師		
	インテリア計画			2						2			浅井 秀子		
	建築史			2		2							浅井 秀子		
	建築環境工学			2				2					浅井 秀子		
建築設備			2		2							非常勤講師			

- (1)◎は必修，○は選択Ⅰ，△は選択Ⅱ，▲は選択Ⅲを表す。
- (2)必修と選択Ⅰ・Ⅱを合わせて88単位以上修得すること。
 - ①社会経営工学プログラム履修者は、必修を52単位，選択Ⅰを16単位以上，選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて36単位以上修得すること。
 - ②土木工学プログラム履修者は、必修を60単位，選択Ⅰを22単位以上，選択Ⅰ及び選択Ⅱを合わせて28単位以上修得すること。
- (3)学科長の許可を得て、6単位以内は選択Ⅲの科目、もしくは本表以外の科目(全学共通科目を除く)を履修し、修得した単位を選択Ⅱの単位として充当することを認める。
- (4)1年次修得単位数によらず、2年次のプログラム選択ができる。
- (5)選択Ⅲの科目を履修するには、次の3つの条件を満たしていなければならない。
 - ①当該科目に収容力があること。
 - ②所属プログラムにおける単位修得、成績が良好かつ優秀であること。
 - ③カリキュラムマップに沿った受講であること。
- (6)取得可能な資格及び卒業後に受験可能な(国家)資格には履修科目や資格取得に関する条件がある。測量士補、建築士受験資格(1級、2級木造)に関しては、土木工学プログラム修了者のみが取得可能である。
- (7)開講学期、担当教員は変更となる場合もあるので、その都度掲示される時間割表を参照すること。

6. 鳥取大学工学部単位認定規程

第1条 授業科目の単位認定の基礎となる1単位当たりの授業時間数は、鳥取大学単位認定規則（平成5年鳥取大学規則第2号）による。

第2条 学生の出席時間数が前条の規定の5分の4に満たない者については、単位の認定を行わない。

2 あらかじめ特別の事情を具して願い出て認可を得た者にあつては、前条の規定の5分の3以上出席した者についても、単位の認定を行うことができる。この場合、所定様式による欠席届に病気の場合は医師の診断書等を添付、その他の場合は理由を詳細に記入し関係教員の認印を得て、授業担当教員へ提出しなければならない。

第3条 単位の認定は、履修した科目についての筆記試験、論文、報告書、平常成績等によって行う。

2 前項の規定によるもののほか、他大学等における授業科目の履修及び大学以外の教育施設等における学修については、学則の規定に基づき、その他の定めにより、これらを鳥取大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定し、又は与えることができる。

第4条 単位の認定は、100点満点で採点して60点以上をもって合格とする。

2 成績はS、A、B、C及びFをもって表す。Sは90点以上、Aは80点～89点、Bは70点～79点、Cは60点～69点、Fは59点以下とする。

3 卒業研究、その他当該学科で指定する科目については、合否で判定し、P、Fをもって表す。Pは合、Fは否とする。

4 前条第2項の規定により単位を認定した場合の当該授業科目の評価は、Nをもって表すものとする。

5 第2条第1項の規定等により単位の認定を行わなかった場合は、当該授業科目の評価は不履修とし、Eをもって表すものとする。

第5条 定期試験は、原則として毎学期末に実施する。

第6条 第2条の条件を満たした者で、病気その他特別の事情により定期試験を受けられなかった者は、追試験を受けることができる。

2 追試験を受けようとする者は、当該試験終了後できるだけ速やかに追試験願および病気の場合は診断書、その他の場合は証明できる書類等を当該授業科目担当教員の承認を得て、学部長に提出しなければならない。

3 追試験を受けた者については、当該授業科目担当教員から成績が提出された時をもって単位の認定が行われたものとする。

第7条 卒業研究は、許可された時から1年以上実施し、論文を提出しなければならない。

2 卒業研究の認定は、卒業研究を除く授業科目の所定の単位を修得した者に対して行うものとする。

第8条 卒業判定の時に、所定の単位に達しない者に対し、最終学年において受講した科目に限り、当該授業科目担当教員の承認を得て、1回限り再試験を行うことができる。

ただし、再試験で受験できる単位数は、所定の単位を満たすまでとし、原則として上限は6単位とする。

2 再試験を受けようとする者は、再試験願を卒業延期が発表された日から1週間以内に当該授業科目担当教員の承認を得て、学部長に提出しなければならない。

なお、再試験は、卒業延期が発表された月の末日までに実施する。

3 再試験に合格した場合の成績は、60点とする。

附 則（昭和40年4月1日から平成28年4月1日まで施行の附則は省略）

附 則

- 1 この規程は，令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和5年3月31日以前の入学者については，この規程による改正後の鳥取大学工学部履修規程の規定にかかわらず，なお，従前の例による。

7. 鳥取大学工学部における専門科目の成績評価に関する 申合せ

平成30年3月12日

第16回工学部学務委員会承認

(趣旨)

第1 この申合せは、鳥取大学工学部における専門科目の成績評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

(成績の評価基準)

第2 専門科目の成績は、次の鳥取大学における成績等の評価及びGPA 制度に関する要項（令和5年1月24日理事（教育担当）裁定）第3条に定める評語及び評価基準等に基づき評価するものとする。

(成績評価基準と方法の周知)

第3 専門科目の授業担当教員は、各授業科目の成績評価の基準と方法をシラバスに明記するとともに、各授業において、到達目標と関連づけながら授業内容に基づき具体的に説明するものとする。

(成績の報告)

第4 専門科目の授業担当教員は、各学期の指定された期日までに、所定の方法により成績を報告するものとする。

(成績評価に対する疑義申立て)

第5 学生が、自らの成績評価に関して、次の各号のいずれかに該当すると判断した場合は、当該授業科目の成績公開後原則として1週間以内に「成績評価確認願」（別紙様式）により申立てを行うことができる。

一 成績の誤記入等、明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの

二 シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法と基準等から、明らかに成績評価について疑義があると思われるもの

(疑義申立てへの対応)

第6 学生から成績評価に関する疑義申立てがあった場合の対応は、工学部学務委員長を責任者とし、疑義申立ての窓口は、工学部教務係とする。

なお、学生は、授業担当教員に直接申立てを行うことはできない。

2 責任者は、申立ての内容を確認し、必要に応じて当該学生に面談等を実施した上で、速やかに授業担当教員に対し成績評価に関する回答を求めるものとする。ただし、申立て内容が、明らかに第5に定める申立てが可能な場合に該当しないと責任者が判断したときは、当該学生にその旨を通知する。

3 授業担当教員は、責任者から回答を求められた場合、1週間以内に回答を行うものとする。

4 責任者は、授業担当教員からの回答内容を確認し、必要な場合は、当該教員に面談等を実施して調整を行った上で、その結果を、申立てのあった日から原則として2週間以内に、当該学生に通知するものとする。

なお、授業担当教員との調整が困難である場合、工学部長が判断するものとする。

(成績評価の修正等)

第7 疑義申立ての結果及びその他の事情により成績評価の修正等が生じた場合、授業担当教員は工学部教務係において成績修正の手続きを行うものとする。

(その他)

第8 この申合せに定めるもののほか、専門科目の成績評価に関し必要な事項は、工学部学務委員会において審議し決定するものとする。

附 記

この申合せは、令和5年4月1日から施行する。

8. 卒業研究の着手条件

4年次に卒業研究に着手するためには、各学科で定める以下の条件を満たしていなければならない。

ただし、以下の条件に含めることができるのは、卒業に必要な単位に限る。履修計画を立て、1～3年次までの間に、必要な単位を修得しておくことが必要である。なお、卒業するための条件は、8ページ以降の専門科目教育課程表欄外に記載しているので、そちらを参照すること。

機械物理系学科

1. 原則として次の2条件を満たしていること。
 - (1) 全学共通科目43単位以上(入門科目6単位, 教養科目26単位以上(うち必修14単位, 選択8単位以上), 外国語科目10単位以上, 健康スポーツ科目1単位以上)を修得していること。
 - (2) 専門科目については60単位以上(うち必修36単位以上)を修得していること。
2. 卒業研究の着手時期は、原則として4月であるが、10月着手も認めることがある。

電気情報系学科

1. 原則として次の4条件を満たしていること。
 - (1) 全学共通科目40単位以上(入門科目5単位, 教養科目24単位以上(うち, 全学共通科目教育課程表の備考欄に従い必修16単位, 選択8単位以上), 外国語科目10単位以上(うち, 全学共通科目教育課程表の備考欄に従い必修10単位), 健康スポーツ科目1単位以上)を修得していること。
 - (2) 専門科目64単位以上を修得していること。さらに, 選択したプログラムにおける必修と選択Ⅰを合わせて55単位以上を修得していること。
 - (3) 3年次までの全ての専門必修科目(電気電子工学プログラム: 20科目, コンピュータサイエンスプログラム: 19科目, 電子情報制御システムプログラム: 17科目, 医工学プログラム: 20科目)のうち, 電気電子工学プログラムでは18科目以上, コンピュータサイエンスプログラムでは17科目以上, 電子情報制御システムプログラムでは15科目以上, 医工学プログラムでは18科目以上を修得していること。
 - (4) 電気情報系実験Ⅰ, Ⅱの単位を全て修得していること。
2. 卒業研究の着手時期は、4月に限る。

化学バイオ系学科

1. 原則として次の(1), (2), (3)または(1), (2), (4)または(1), (2), (5)の条件を満たしていること。
 - (1) 全学共通科目の卒業に必要な単位(39単位)を全て修得していること。
 - (2) 専門科目を69単位以上修得し, かつ専門科目の必修科目を21単位以上修得していること。
 - (3) 合成化学プログラム・材料化学プログラム・グリーンケミストリープログラムでは, 応用化学実験Ⅰ～Ⅲを全て修得していること。
 - (4) バイオサイエンスプログラム・バイオテクノロジープログラムでは, 生物工学実験Ⅰ～Ⅲを全て修得していること。
 - (5) 医工学プログラムでは, 生物工学実験Ⅰ～Ⅲと医工融合実践プロジェクトを全て修得していること。
2. 卒業研究の着手時期は、4月に限る。

社会システム土木系学科

1. 原則として修得単位数が卒業必要修得単位数のうち次の2条件を満たしていること。
 - (1) 全学共通科目の修得単位数の合計が35単位以上であること。
 - (2) 専門科目の修得単位数の合計が67単位以上であること。

ただし、土木工学プログラム履修者は、工学基礎（土木系）分野の修得単位数が30単位以上であること。

2. 卒業研究の着手時期は、4月に限る。

9. 学位論文の評価基準

工学部では、研究倫理を遵守して研究および論文執筆がなされていることを前提に、学位論文を下表の基準により評価する。学位授与は論文審査及び最終試験の結果に基づき、総合的に審議し、判定する。

卒業論文		チェック項目（例示）
1	問題の意義が明確か	論文の目的が述べられているか。問題が明確に記述されているか。その重要性が示されているか。そのことに説得力があるか。etc.
2	先行研究の吟味ができているか	重要な先行研究を網羅して検討しているか。その評価は妥当か。問題設定との関わりが明確にされているか。etc.
3	方法が妥当か	問題を追及するのにふさわしい方法か。そのことが自覚されているか（方法論的自覚があるか）。etc.
4	論文の構成は適切か	問題設定と整合性がとれた構成となっているか。etc.
5	論理的に展開されているか	論理に矛盾や飛躍がないか。論旨が明確になるような記述になっているか。etc.
6	証拠に基づき客観的に分析・考察・記述がなされているか	証拠が十分に集められているか。その解釈は妥当か。分析・考察結果を明確に記述できているか。etc.
7	結論は妥当か	設定した問題に整合的に答えているか。考察の結果を踏まえた結論となっているか。明らかになったこととそうでないことが区別され、残された課題が明示されているか。etc.
8	引用・注記・文献の表記などの作法，文章表現・表記は適切か	引用・注記・文献の表記などの作法は適切か。文章表現，レトリックなどは適切か。etc.

10. 履修の解説

1. 単位について

単位の取扱いについては、鳥取大学工学部単位認定規程による。1単位の履修時間は教室内及び教室外あわせて45時間を原則とする。授業形態と授業回数、学習時間、単位数の関係は次のとおりとする。

授業形態	授業回数	学習時間			単位数
		授業時間	自習時間	合計	
講義	15回 (週1回)	30時間 (週2時間)	60時間 (週4時間)	90時間 (週6時間)	2単位
演習	15回 (週1回)	30時間 (週2時間)	15時間 (週1時間)	45時間 (週3時間)	1単位
実験、実習	15回 (週2回)	45時間 (週3時間)	0時間 (週0時間)	45時間 (週3時間)	1単位

※1回90分の授業を2時間の授業時間とみなす。

※クォーター開講科目のうち、毎週1回×8週のものについては、学習時間・単位数が上表の数値の半分となる。

※講義と演習が1科目となっている科目（3単位）については、授業形態 講義と演習の学習時間・単位数の合計となる。

2. 履修申込みについて

鳥取大学工学部履修規程の第4条に履修申込みについて定めているので、各自の履修計画を履修規程に従って十分に研究した上で履修手続きをすること。

なお、全学共通科目については鳥取大学全学共通科目履修規則の第5条に定めてあるので、履修規則に従って履修手続きをすること。詳細については入学時に配布した資料を参照のこと。

3. 授業への出席について

単位認定のための出席時間数に関しては『鳥取大学工学部単位認定規程』に記載のとおりです。やむを得ない事情（病気、交通事故、災害及び忌引、課外活動等）のため授業に出席できない場合は、原則として授業実施後2週間以内に、証明書類等を添付の上、授業欠席届を授業担当教員へ提出してください。

ただし、授業欠席届を提出しても出席として認められるわけではありませんので注意してください。やむを得ない事情及び証明書類等については下記のとおりです。

(1) 病気

- ・証明書類等：医師の診断書または病院の領収書等の写し

(2) 忌引

- ・配偶者または1親等の場合は、死亡日から起算して連続7日の範囲内の期間。
- ・2親等の場合は、死亡日から起算して連続3日の範囲内の期間。
- ・証明書類等：葬儀の礼状等の写し

(3) 事故・自然災害

- ・証明書類等：証明できるものの写し

(4) 介護等体験 及び 教育実習

- ・教育実習で授業を欠席する場合は、教育実習履修に伴う欠席届をあらかじめ授業担当教員に提出してください。
- ・証明書类等：教務係からの証明

(5) 課外活動

- ・以下の活動のうち、課外活動サークルとして登録され、事前に大会参加を届出ている場合に限る。
国際大会、全国大会（種目別大会、コンクール、展覧会・演奏会を含む。）、
地区大会（県内大会は除く。）（種目別大会、コンクール、展覧会・演奏会を含む。）
- ・証明書类等：学生生活課学生支援係からの証明

(6) その他

- ・上記以外の事由については、事前に教務係にご相談ください。

4. 試験

履修手続きをした授業科目については試験が行われる。ただし、論文、報告書、平常成績等を試験の代わりとする場合もある。

病気その他の特別な事情により試験を受験できなかった場合は、追試験を受けることができる。追試験を受ける場合は、当該試験終了後できるだけ速やかに、追試験願を当該科目の授業担当教員の承認を得て学部長に提出すること。なお、病気による場合は医師の診断書等を添えること。

5. 成績について

成績は100点満点で採点され、60点以上が合格となる。試験に合格と判定された授業科目はいかなる理由があっても取り消すことはできない。

【成績の評価基準】

区分	評語	評点	基準	GP
合格	S	90～100	修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。	4
	A	80～89	基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。	3
	B	70～79	到達目標を達成し、基礎知識・技能を修得している。	2
	C	60～69	到達目標を達成し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。	1
不合格	F	0～59	到達目標を達成していない、また授業の基礎知識・技能を修得できていない。	0

【合否による科目】

区分	評語	基準
合格	P	到達目標を達成している。
不合格	F	到達目標を達成していない。

【成績の評価ができない科目】

区分	評語	評点	基準	GP
不履修	E	無	履修登録は行ったが、「鳥取大学単位認定規則」で定める出席回数に達していない。若しくは単位の認定試験を受験していない。（論文及びレポート等の未提出を含む。）又は不正行為により単位が認定されない。	0

【既修得単位として認定する科目】

区分	評語	基準
認定	N	到達目標を達成している。

◆なお、成績証明書では「F」「E」は表記されない。

成績は、学務支援システムにおいて、各自が確認することになる。通知日等は掲示連絡するので見落としのないよう注意すること。

6. 成績評価に疑義がある場合の申立て制度について

成績評価に疑義があり、申立てを行う場合は、当該授業科目の成績公開後1週間以内に成績評価確認に必要事項を記入し、学部長に願い出ること。

なお、疑義申立てを行うことができるのは、次の場合に限る。

- ・成績の誤記入等、明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの
 - ・シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法と基準等から、明らかに成績評価について疑義があると思われるもの
- その他、詳細については、工学部教務係に問い合わせること。

7. 休講

授業担当教員の公務、出張、病気などによって授業が行えなくなり、やむを得ず休講となる場合がある。休講については、各学科掲示板、学務支援システムまたはeラーニングシステム(manaba)等により連絡するので、確認すること。休講の掲示がなく授業開始時間を過ぎても担当教員が来ない場合は、工学部教務係まで問い合わせること。

8. 補講

補講は授業の進度・休講を補う授業として行われる。補講が行われる場合には、各学科掲示板、学務支援システムまたはeラーニングシステム(manaba)等により通知するので、日時・講義室などを確かめて受講すること。なお、補講は5限以降に行われる場合もある。

9. 所属学科教育課程表以外の科目の履修について

A. 他学科の専門科目及び自然分野の履修

a) 卒業所要単位への算入の条件での履修

修得した科目の単位を卒業所要単位数に算入することを希望するときは、他学科授業科目履修願に必要事項を記入し、科目担当教員の許可(認印)を得た後、在籍学科長に許可を願い出ること。

b) 卒業所要単位に算入されない条件での履修

履修を希望する者は、他学科授業科目履修願に必要事項を記入し、科目担当教員の許可(認印)を得た後、在籍学科長に許可を願い出ること。

許可された場合、修得した単位の履修歴は記録される。

B. 他学部の専門科目及び自然分野の履修

この場合は、学則第28条により学部長間の協議が必要となるので、履修を希望する者は、他学部授業科目履修願に必要事項を記入し、在籍学科長の許可を得て、学部長に願い出ること。

なお、修得した単位の取扱いは、A.の場合に準ずる。

C. 単位互換制度について

単位互換制度とは、単位互換協定校の授業科目を履修し、そこで修得した単位を、所属する大学

の単位として認定しようとするものである。本学部には、以下の単位互換制度がある。

(1) 鳥取県4大学間単位互換制度

鳥取県内4大学（鳥取大学，鳥取環境大学，鳥取看護大学，鳥取短期大学）との間で単位を互換する制度である。詳細は鳥取県4大学間単位互換科目履修案内を参照すること。

(<https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/class/compatibility/>)

(2) 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換制度

島根大学，岡山大学，広島大学，山口大学，香川大学，徳島大学，愛媛大学の各工学系学部及び本学部の間で単位を互換する制度である。

10. 「飛び級」制度について

(1) 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科においては、鳥取大学大学院学則第40条第2項に定める「大学に3年以上在学し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者」について、大学院入学資格を与える、いわゆる「飛び級」制度が設けられている。

(2) 本制度によって、大学院に入学した者の学部学生としての学籍上の取扱いは、退学となる。したがって、種々の国家試験等の資格試験の受験資格の中で、大学の学部を卒業していることをその要件としているものについては、受験資格がないことになる。

(3) 本制度の詳細については、志望するコースのコース主任又は指導教員に問い合わせること。

11. 定期試験における学生証の提示について

定期試験においては、必ず学生証を持参し、試験中は学生証を机の上に置くこと。

12. 試験において不正行為を行った者の取扱いについて

試験において不正行為を行った者の当該期（不正行為を行った学期）の単位は、全学共通科目及び専門科目ともすべて認めない。

13. その他

(1) 転学部・転学科について

転学部・転学科制度の詳細については、工学部教務係に問い合わせること。

(2) 転プログラムについて

転プログラムの詳細については、所属学科の学科長または学務委員に問い合わせること。

(3) 学生に対する連絡について

休講，補講日時及び履修手続期間等学生に対しての連絡は掲示板，学務支援システムまたはeラーニングシステム(manaba)等により行うので、常にお知らせに注意すること。

(4) 諸様式について

各種手続きに係る諸様式は工学部教務係で配布する。

(5) 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングの詳細については、工学部ホームページで確認すること。

11. ハラスメント防止及び学生相談

鳥取大学では、学生の皆さん一人ひとりが心理的、身体的に安全な環境で勉学に研究に専念し、充実したキャンパス・ライフを送ることの出来る大学を目指しています。そのためには、安全な教育・研究環境を脅かすいかなる行為も、黙認されるべきではありません。

大学における人間関係は、個人の自由で平等な関係を前提とし、各自が互いに相手の立場を尊重し合うことを基盤としています。しかし、残念ながらこの基盤が崩れ、性的に差別を受けたり、心理的、身体的に傷つけられることが起こらないとは限りません。

鳥取大学では、こうしたハラスメントを防止するために、「鳥取大学におけるハラスメントの防止等に関する規程」を制定しています。

ハラスメントに対する相談、悩んでいることがあれば、できるだけ早い段階でハラスメント相談員に相談してください。あなたの相談に対して誠実に対応します。相談した内容、あなたのプライバシーは堅く守られます。相談したことによって、あなたが不利になることは決してありません。

相談の流れ及び相談員については下記の URL をご覧ください。

<https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/support/harassment/>

また、相談員には、所属学部に関係なく誰でも相談できます。

学級教員（指導教員）、相談員及び教務係の他に、全学組織として「学生支援センター」と「保健管理センター」が設置されています。相談事項に応じて、利用してください。

○学生支援センター (<http://www.st-support.adm.tottori-u.ac.jp/student-life/index.html>)

学生生活におけるあらゆる疑問や悩みや困っていることを聞いて、より適切な解決方法のアドバイスや相談先（学内外の関係者）を紹介しています。「身近な人には相談しづらい」「気がかりなことがある」「何となく話をしてみたい」といった場合にも、気軽にご利用ください。

「学生なんでも相談窓口」へのアクセス

鳥取キャンパス 共通教育棟 A 棟 2 階学生支援センター「学生なんでも相談窓口」

受付時間 午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分

○保健管理センター（<https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/welfare/health/>）

みなさんの身体・精神面の悩みや健康上の問題について、カウンセラーによるカウンセリングや医師による相談・診察を行っています。

保健管理センターホームページの「お問い合わせフォーム」や電話、又は直接窓口でお問い合わせください。開所時間 午前 8 時 30 分～午後 5 時

12. 学生が学校保健安全法に基づく出席停止となり授業に出席できない場合の取扱いについて

学校保健安全法施行規則第18条に定める感染症にかかった場合、またはかかった疑いがある場合、学内感染及び感染拡大防止のため、出席停止の取り扱いとします。該当する者は、まず工学部教務係へ連絡をした上で、医師の指示に従ってください。なお、回復して授業に出席する場合には、「感染症届出書（兼治癒証明書）」に医師の証明を受け、工学部教務係へ提出してください。「感染症届出書（兼治癒証明書）」の提出をもって、欠席した授業担当教員への連絡を行い、履修上不利とならないよう配慮します。その他、詳細については鳥取大学ホームページを参照してください。「感染症届出書（兼治癒証明書）」はそこからダウンロードできます。

○学校保健安全法施行規則に定める感染症の種類と出席停止期間

分類	病名	出席停止の基準	
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、急性灰白髄炎（ポリオ）、特定鳥インフルエンザ（H5N1）	治癒するまで	
第2種	インフルエンザ	発症後5日、かつ、解熱後2日（幼児3日）が経過するまで	
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または、5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで	
	麻疹（はしか）	解熱した後3日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで	
	風疹	発疹が消失するまで	
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで	
	咽頭結膜熱	主要症状が消失した後2日を経過するまで	
	新型コロナウイルス感染症（※）	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで	
	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認めるまで	
	その 他 の 感 染 症	溶連菌感染症	適正な抗菌剤治療開始後24時間を経て全身状態が良ければ登校可能
	ウイルス性肝炎	A型・E型：肝機能正常化後登校可能 B型・C型：出席停止不要	
	手足口病	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可	

	伝染性紅斑	発疹（リンゴ病）のみで全身状態が良ければ登校可能
	ヘルパンギーナ	発熱や喉頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
	マイコプラズマ感染症	急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
	感染性胃腸炎（流行性嘔吐下痢症）	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能
	アタマジラミ	出席可能（タオル、櫛、ブラシの共用は避ける）
	伝染性軟属腫（水いぼ）	出席可能（多発発疹者はプールでのビート板の共用は避ける）
	伝染性膿痂疹（とびひ）	出席可能（プール、入浴は避ける）

※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

*出席停止期間の基準は上記のとおりですが、症状により個人差がありますので、医師の指示に従ってください。

*感染を防止するため、出席停止期間中は、友人等との接触は避けてください。

13. 気象警報発令に伴う授業及び定期試験の取扱いについて

気象警報発令に伴う授業及び定期試験（以下「授業等」という。）の取扱いは下記のとおりとする。

1. 授業等の取扱い

- (1) 特別警報（波浪特別警報を除く。）が、鳥取市北部（米子キャンパスにあつては米子市）に午前7時時点で発令されている場合は午前（1時限及び2時限）の授業等を休講とし、午前11時時点で発令されている場合は午後（3時限、4時限及び5時限）の授業等を休講とする。
- (2) 鳥取市北部（米子キャンパスにあつては米子市）に警報（暴風、大雨、洪水、大雪、暴風雪）が発令されており、かつ、公共交通機関（鳥取駅、米子キャンパスにあつては米子駅発着のJR）が運休している場合には、教育担当理事（米子キャンパスにあつては医学部長）が実際の天候等を考慮の上、午前（1時限及び2時限）の授業等は午前7時、午後（3時限、4時限及び5時限）の授業等は午前11時を目途に、授業等の実施の可否を判断する。
- (3) 上記以外で特に安全確保が必要と認められる場合は、授業等を休講とする。
- (4) 休講に伴う補講は、原則として各学期に設定する予備日に実施するものとする。ただし、オンライン方式により補講を実施する場合はこの限りではない。

2. 周知の方法

- (1) 特別警報の場合、原則、周知は行わない。
- (2) 警報の場合、次のとおりとする。
 - 1) 学務支援システムの掲示板又は鳥取大学ホームページのお知らせ欄に次のとおり掲載する。

午前の授業	午前 7時30分までに掲載
午後の授業	午前11時30分までに掲載
 - 2) 学生部から各学部へ連絡し、各学部は掲示等により周知する。
 - 3) 非常勤講師については、必要に応じて各学部及び学生部からメール及び電話等により速やかに周知する。

3. 悪天候により通学困難な場合の取扱い

授業等を休講しない場合において、公共交通機関が運休する等のやむをえない事情により学生が授業等を欠席又は遅刻した場合は、授業担当教員は当該学生に対し、不利益を与えないよう配慮するものとする。

14. 鳥取大学単位認定規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鳥取大学学則（平成16年鳥取大学規則第55号。以下「学則」という。）

第25条に規定する単位の認定等について必要な事項を定めるものとする。

(授業時間数)

第2条 学則第22条に定める開設授業科目の単位認定に当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、1単位の授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|----------------------------|------|
| 一 講義 | 15時間 |
| 二 演習及び全学共通科目の実技 | 30時間 |
| 三 実験、実習及び実技（全学共通科目の実技を除く。） | 45時間 |

2 前項の規定にかかわらず、1単位の授業時間について、各学部において必要と認める場合には、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第21条第2項に定めるところにより、当該学部において別に定めることができる。

3 各学部が、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組合せに応じ、前2項に定める授業の時間を考慮するものとする。

(出席時間数)

第3条 出席時間数が前条第1項及び第2項の規定の5分の4に満たない者については、単位の認定を行わない。ただし、特にやむを得ない事情があると認められた者については、例外的に同項の規定の5分の3以上出席した者についても、単位の認定を行うことができる。

(単位の認定)

第4条 一の授業科目を履修した学生に対しては、試験（論文及びレポート等を含む。）の上、次条に規定する成績の評価に基づき、単位を認定するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文及び卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して、各学部規則の定めるところにより単位を認定するものとする。

3 前項までの規定によるもののほか、他大学等における授業科目の履修及び大学以外の教育施設等における学修については、学則の規定に基づき、その他の定めにより、これらを鳥取大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定し、又は与えることができる。

(成績の評価)

第5条 成績の評価は、100点満点で採点して60点以上を合格とする。

2 成績は、S、A、B、C及びFをもって表し、Sは90点以上、Aは80点～89点、Bは70点～79点、Cは60点～69点、Fは59点以下とする。

3 前2項の規定にかかわらず、学部で指定する科目については、合否で判定し、合はP、否はFをもって表すものとする。

4 前条第3項の規定により単位を認定した場合の当該授業科目の評価は、Nをもって表すものとする。

5 第3条前段の規定等により単位の認定を行わなかった場合は、当該授業科目の評価は不履修とし、Eをもって表すものとする。

(追試験)

第6条 追試験は、第3条の条件を満たした者で病気その他特別の事情により試験を受けなかった者について行う。

(受験不正行為による単位不認定)

第7条 試験（論文及びレポート等を含む。）において不正行為を行った場合は、当該期の単位はすべて認めない。

(授業料未納により除籍された者の単位の不認定)

第8条 学則第80条第3項の規定により除籍された者については、授業料未納期間に係る単位は認定しない。

附 則

- 1 この規則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和4年度以前に入学した者及び当該者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者は、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

15. 鳥取大学における成績等の評価及びGPA制度に関する要項

令和5年1月24日
理事（教育担当）裁定

（趣旨）

第1条 この要項は、鳥取大学単位認定規則（平成5年鳥取大学規則第2号）その他鳥取大学（以下「本学」という。）における関係規則等に定める成績等の評価又はこれに関連する事項について、本学における成績等の評価及びグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績等の平均値をいう。以下「GPA」という。）制度の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 この要項は、成績等の評価及びGPA制度の取扱いについて必要な事項を定めることにより、教育課程を通じて、学生の学修意欲の向上及び適切な修学指導に資することを目的とする。

（評語、評価基準及びGP）

第3条 学生が履修した授業科目の成績等に関する評語及び基準並びにグレード・ポイント（各評語に与えられる数値。以下「GP」という。）は、次表のとおりとする。

表 1 100 点満点で採点して成績を判定する授業科目

区分	評語	評点	基準	GP
合格	S	90～100	修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。	4
	A	80～89	基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。	3
	B	70～79	到達目標を達成し、基礎知識・技能を修得している。	2
	C	60～69	到達目標を達成し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。	1
不合格	F	0～59	到達目標を達成していない、また授業の基礎知識・技能を修得できていない。	0

表 2 単位の認定ができない授業科目

区分	評語	評点	基準	GP
不履修	E	無	履修登録は行ったが、「鳥取大学単位認定規則」で定める出席回数に達していない。若しくは単位の認定試験を受験していない。（論文及びレポート等の未提出を含む。）又は不正行為により単位が認定されない。	0

表 3 合否により成績を判定する授業科目

区分	評語	基準
合格	P	到達目標を達成している。
不合格	F	到達目標を達成していない。

表 4 鳥取大学学則（平成 16 年鳥取大学規則第 55 号）第 32 条及び鳥取大学大学院学則（平成 16 年鳥取大学規則第 56 号）第 27 条の規定により既修得単位として認定をした授業科目

区分	評語	基準
認定	N	到達目標を達成している。

（GPAの種類と算出方法）

第3条 GPAは、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標（以下「学期GPA」という。）、当該学年における学修の状況及び成果を示す指標（以下「学年GPA」という。）、及び在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標（以下「累積 GPA」という。）の3種類とする。

2 学期GPA、学年GPA及び累積GPA算出の計算式は、次の各号に掲げるとおりとし、算出された数値の少数点第3位以下は四捨五入するものとする。

一 学期GPA算出の計算式

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{（当該学期の各履修登録科目の単位数} \times \text{当該科目の GP）の総和}}{\text{当該学期における履修登録科目の総単位数}}$$

二 学年GPA算出の計算式

$$\text{学年 GPA} = \frac{\text{（当該学年の各履修登録科目の単位数} \times \text{当該科目の GP）の総和}}{\text{当該学年における履修登録科目の総単位数}}$$

三 累積GPA算出の計算式

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{（在学全期間の各履修登録科目の単位数} \times \text{当該科目の GP）の総和}}{\text{在学全期間における履修登録科目の総単位数}}$$

（GPA算出の対象授業科目）

第5条 GPAの算出の対象は、各学部・各研究科（以下「学部等」という。）の履修規則等に規定する卒業要件に係る授業科目とする。

2 不正行為により単位が認定されなかった授業科目については、履修歴があったもの取り扱い、GPA算出の対象とする。

3 不合格と評価された授業科目又は不履修とされた授業科目については、後に再履修によって合格となった場合であっても、不合格又は不履修の際のGPを含めた全てのGPをGPA算出の対象とする。

4 前3項の規定にかかわらず、次に掲げる授業科目については、GPA算出の対象としない。

- 一 合否で成績を判定する授業科目
- 二 鳥取大学学則第32条及び鳥取大学大学院学則第27条の規定により既修得単位として認定をした授業科目
- 三 学部等においてGPA算出の対象から除外する指定をした授業科目
(休学した学生の履修科目の取扱い)

第6条 休学に伴い単位が認定されなかった授業科目は、履修歴がなかったこととして取り扱う。ただし、休学が許可される前に単位が認められた授業科目については、修得単位を認め、GPA算出の対象とする。

(GPAの表示)

第7条 学務支援システムの成績修得状況において、学期GPA、学年GPA及び累積GPAを表示する。

(GPAの活用)

第8条 本学は、GPAを教育内容等の改善、履修指導、学修支援、学生生活支援等に活用するものとする。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、成績評価及びGPA制度の実施について必要な事項は、教育支援委員会の議を経て、理事(教育担当)が定める。

附則

- 1 この要項は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和4年度以前に入学した者及び当該者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、第3条の表に示す評語のSをAに、AをBに、BをCに、CをDに、PをSにそれぞれ読み替えて適用する。
- 3 成績の評価基準(平成20年度第10回教育支援委員会承認)及び受験不正行為により単位を認定されない学生及び学期の途中で休学した学生の履修歴についての申合せ(平成17年度第6回教育支援委員会承認)は廃止する。

16. 鳥取大学工学部派遣学生・特別聴講学生規程

第1条 この規程は、鳥取大学学則（平成16年鳥取大学規則第55号。以下「学則」という。）第34条及び第54条第3項の規定に基づき、その実施に関し必要な事項を定める。

第2条 この規程において「派遣学生」とは、鳥取大学工学部（以下「本学部」という。）の学生で、他の国立、公立、私立及び外国の大学（以下「他の大学」という。）の授業科目を履修する者をいう。

2 「特別聴講学生」とは、他の大学の学生で本学部の授業科目を履修する者をいう。

3 「大学間協議」とは、派遣学生及び特別聴講学生の取扱いについて、あらかじめ本学部と当該他の大学との間で履修できる授業科目の範囲、対象となる学生数、単位の認定方法及び授業料等の費用の取扱い、その他必要な措置に関して行う協議をいう。

4 「他の大学の長」とは、大学間協議における協議機関の長をいう。

第3条 学生の派遣及び特別聴講学生の受入れは、大学間協議が成立したものについて行う。ただし、外国の大学にあっては、やむを得ない事情があるときは、事前の協議を欠くことができる。

第4条 派遣学生を志願する者は、所属学科の学科長の許可を得て、派遣学生許可願（様式1号）に、大学間協議に基づく必要書類を添えて、学部長に願い出なければならない。

2 前項の願い出の時期は、大学間協議の定めるところによる。

第5条 前条の願い出があったときは、鳥取大学工学部教授会（以下「教授会」という。）の議を経て、学部長が当該他の大学の長と協議の上、派遣を許可する。ただし、外国の大学に留学する学生にあっては、学部長を経て学長の許可を得なければならない。

第6条 派遣学生の履修期間の単位は、1期又は1学年とする。

第7条 前条に規定する履修期間は、本学部の修業年限及び在学期間に算入する。

第8条 派遣学生が修得した単位は、学則第29条の規定に基づき卒業の要件となる単位として取扱うことができる。この場合において、授業科目及び単位数は当該学科において定めるものとする。

2 前項の単位の認定は、他の大学の長の交付する学業成績証明書等により教授会が行う。この場合において、授業時間数及び授業形式等を考慮した上で、本学部の単位の換算するものとする。

3 単位制をとらない外国の大学における学修成果の単位換算は、前項の規定を準用する。

第9条 派遣学生は、履修期間が終了したときは、直ちに学部長に履修報告書（様式2号）を提出しなければならない。ただし、外国の大学に留学した派遣学生にあっては、別に帰着届を帰国後速やかに、学部長を経て学長に提出しなければならない。

第10条 派遣学生は、学則に定める授業料を本学に納付するとともに、他の大学の定めるところにより授業料等を納付しなければならない。

第11条 学部長は、他の大学の長から受入れ取消しの通知を受けたときは、派遣を中止するものとする。

第12条 特別聴講学生を志願する者は、他の大学の長を経て、次に掲げる書類を添えて学部長に願い出なければならない。ただし、履歴書、成績証明書及び健康診断書については、大学間協議に基づき省略することができる。

- (1) 特別聴講学生入学願（様式3号）
- (2) 履歴書
- (3) 成績証明書
- (4) 指導教員又はそれに準ずる教員の推薦書
- (5) 身元保証書（外国の大学に在学する学生のみ）

2 前項の願い出の時期は、入学を希望する学期の始まる1月前までとする。ただし、外国の大学の学生にあっては、原則として6月前までとする。

第13条 前条の願い出があったときは、教授会の議を経て学部長が入学を許可する。

2 学部長は、入学を許可したときは、他の大学の長を経て本人にその旨を通知するものとする。

第14条 特別聴講学生の受入れ期間の単位は、1期又は1学年とする。

第15条 特別聴講学生は、大学間協議で定められた範囲内で、本学部の授業科目を履修することができる。

第16条 特別聴講学生には、鳥取大学工学部単位認定規程（昭和40年鳥取大学工学部規則第3号）に基づき、所定の単位を与えるものとする。

第17条 学部長は、特別聴講学生の履修が終了したときは、学業成績証明書を作成して他の大学の長に通知するものとする。

第18条 特別聴講学生は、学生証の交付を受け常に携帯しなければならない。

第19条 特別聴講学生は、学則に定める授業料を納付しなければならない。ただし、国立大学に在学中の者、授業料を相互に徴収しないことを定めた大学間相互単位互換協定（附属書を含む。）に基づき本学部の授業科目を履修する公立又は私立大学（短期大学を含む。）に在学中の者及び授業料を相互に徴収しないことを定めた大学間交流協定（附属文書等を含む。）に基づき本学部に入学者及び外国人留学生の授業料は、徴収しないものとする。

第20条 特別聴講学生が次の各号の一に該当する場合は、学部長は、教授会の議を経て除籍することがある。

- (1) 成業の見込みのないとき。
- (2) 本学の規則に反する行為があったとき。
- (3) 授業料等の納付の義務を怠ったとき。

第21条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は教授会の議を経て学部長が定める。

附 則 （昭和55年11月17日から平成16年4月1日まで施行の附則は省略）

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

様式 1 号

派 遣 学 生 許 可 願

令和 年 月 日

工 学 部 長 殿

学 科
入学年度
氏 名

下記のとおり願いますので、許可願います。

記

		学 科 長 承 認 印		
派遣大学	大 学 学 部 学 科			
派遣期間	令 和 年 月 日～令 和 年 月 日(か月間)			
履 修 希 望 科 目	単 位 数	担 当 教 員		
履修を希望する理由				

様式 2 号

履 修 報 告 書

令和 年 月 日

工 学 部 長 殿

学 科
入学年度
氏 名

このたび派遣が終了しましたので、下記のとおり報告します。

記

派遣大学	大 学	学 部	学 科
在籍身分			
派遣期間	令和 年 月 日～令和 年 月 日（ か月間）		
	履 修 科 目	単 位 数	
研究・学修の概要			

様式 3 号

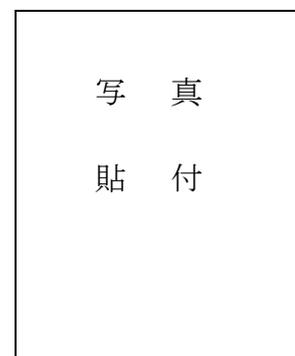
特 別 聴 講 学 生 入 学 願

ふ り が な
氏 名

生年月日 年 月 日生

性 別 男 女

(国 籍) (外国の大学に在学中の者のみ)



現 住 所

在籍大学 大学 学部 学科

入学年

入学を希望する期間 年 月 日～ 年 月 日

聴講する学科 学科

聴講する科目，単位数等

科 目 名	単 位 数	担 当 教 員

上 記 の と お り 願 い 出 ます。

令 和 年 月 日

署 名

工 学 部 長 殿

17. 鳥取大学工学部科目等履修生，聴講生及び研究生規程

(趣旨)

第1条 鳥取大学工学部における科目等履修生，聴講生及び研究生（以下「科目等履修生等」という。）に関する事項は，鳥取大学学則（平成16年鳥取大学規則第55号）に定めるもののほか，この規程に定めるところによる。

(出願資格)

第2条 科目等履修生等を志願できる者は，鳥取大学学則第38条各号の一に該当する者のうち，当該授業科目を履修又は特定の事項について研究するのに十分な学力があると認めたとする。

(出願手続)

第3条 科目等履修生等を志願する者は，次に掲げる書類を所定の期間内に学部長に提出しなければならない。ただし，聴講生を志願する者は，第3号及び第4号の書類を省略することができる。

- 一 入学志願票
- 二 履歴書
- 三 卒業証明書
- 四 成績証明書
- 五 所属長の承諾書（有職者のみ）

2 科目等履修生又は聴講生を志願する者は，あらかじめ，履修又は聴講しようとする授業科目の担当教員の承諾を，また研究生を志願する者は，研究指導を受ける教員の承諾を得なければならない。

(選考方法)

第4条 科目等履修生等の受入の可否は，教授会の議に基づき行うものとする。

(入学手続)

第5条 科目等履修生等は，入学を許可された日から定められた期間内に所定の入学手続きをしなければならない。

(履修の方法及び制限)

第6条 科目等履修生及び聴講生の受講手続き，その他履修に関することは，鳥取大学工学部履修規程を準用する。

2 科目等履修生又は聴講生が志願した授業科目のうち，学生の学修に妨げのあるものについては，履修又は聴講を制限することがある。

(単位認定)

第7条 科目等履修生の単位認定については，鳥取大学工学部単位認定規程を準用する。

2 聴講生に対する単位の認定は行わない。

(証明書の交付)

第8条 学部長は，次の場合証明書を交付することができる。

- 一 科目等履修生が単位を修得し，その証明を願い出たとき。
- 二 研究生が研究事項について証明を願い出たとき。

(雑則)

第9条 その他科目等履修生等に関し必要な事項は，教授会の議を経て学部長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は，平成17年4月1日から施行する。
- 2 鳥取大学工学部科目等履修生及び聴講生規程（平成5年鳥取大学工学部規則第8号）は，廃止する。

18. 教育職員免許状の取得について

工学部学生で教育職員免許状の取得を希望する者は、教育職員免許法及び同施行規則に定められた科目及び単位を修得すれば次のとおり免許状が取得できる。

学 科	免許状の種類	免許教科
機械物理系学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学 数学, 工業
電気情報系学科	高等学校教諭一種免許状	情報, 工業
化学バイオ系学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理科 理科, 工業
社会システム土木系学科	高等学校教諭一種免許状	工業

※教育職員免許状取得のための履修方法等は、別冊の「教育職員免許状取得のための手引」を参照すること。

※詳細については、工学部教務係に問い合わせること。

19. 学級教員 (令和6年度入学)

学 科	学級教員	
機械物理系学科	後藤 知伸	中井 唱
	松野 崇	本宮 潤一
電気情報系学科	市野 邦男	井上 路子
	木村 周平	白岩 史
	高橋 健一	西村 亮
	徳久 雅人	李 相錫
	西山 正志	三柴 数
	吉川 宣一	
化学バイオ系学科	伊福 伸介	花島 慎弥
	八木 寿梓	山口 和輝
社会システム土木系学科	高部 祐剛	河野 誉仁
	谷口 朋代	梶川 勇樹

全学共通科目

20. 鳥取大学全学共通科目履修規則	-----	43
21. 全学共通科目開設一覧表について	-----	49
22. 鳥取大学における外国人留学生に対する授業科目等の特例に関する規程	-----	49

20. 鳥取大学全学共通科目履修規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鳥取大学学則（平成16年鳥取大学規則第55号。以下「学則」という。）第24条第3項の規定に基づき、全学共通科目の授業科目、履修方法及び試験等に関し必要な事項を定めるものとする。

(全学共通科目及び一般教養科目の科目区分)

第2条 全学共通科目は、農学部共同獣医学科を除く学部及び学科を対象とし、その科目区分は、次のとおりとする。

入門科目

大学入門ゼミ

情報リテラシ

キャリア入門

データサイエンス入門

教養科目

基幹科目

人文・社会分野

自然分野

実験演習分野

主題科目

人間と文化

人間と科学

人間と環境

健康と生命

世界と地域

教養ゼミナール

キャリア科目

外国語科目

健康スポーツ科目

2 一般教養科目は、農学部共同獣医学科を対象とし、その科目区分は、次のとおりとする。

大学教育導入科目群

人文・社会科学科目群

自然科学科目群

複合領域科目群

外国語科目群

(開設授業科目、単位数及び履修年次)

第3条 全学共通科目及び一般教養科目の科目区分ごとに修得すべき単位数及び履修年次等については、別に定める。

2 全学共通科目及び一般教養科目の科目区分ごとに開設する授業科目及び単位数は、鳥取大学教育支援委員会（以下「教育支援委員会」という。）において開設年度の前年度末までに決定する。なお、特に必要と認められる授業科目については、その決定後においても補充することができる。

(外国人留学生の履修及び海外実践教育科目履修の特例)

第4条 第2条に規定するもののほか、外国人留学生のために、日本語・日本事情に関する授業科目を置き、当該授業科目の履修については、鳥取大学における外国人留学生に対する授業科目等の特例に関する規程（平成5年鳥取大学規則第4号）で定める。

2 第2条に規定するもののほか、海外の教育研究機関と連携し、海外において教育を実施するために、海外実践教育科目を置き、当該授業科目の履修については、鳥取大学における海外実践教育科目の特例に関する規程（平成18年鳥取大学規則第4号）で定める。

(履修手続)

第5条 学生は、毎学期所定の期日までに履修しようとする授業科目を、所定の方法により登録しなければならない。

(単位の認定)

第6条 単位の認定は、鳥取大学単位認定規則（平成5年鳥取大学規則第2号。以下「単位認定規則」という。）に基づき行う。

(試験)

第7条 定期試験は、原則として学期末に行う。ただし、レポート試験、実技試験等を行う場合には、定期試験を行わないことがある。

2 追試験は、単位認定規則第6条に該当する者について行う。

3 再試験は、当該学部の定める年次に、所定の要件を満たした者に対し、当該年度に受験した授業科目に限り行うことができる。

(既修得単位等の認定)

第8条 学則第32条の規定による本学に入学前の既修得単位（全学共通科目及び一般教養科目に相当する授業科目に限る。）の認定は、必要に応じ教養教育センター（以下「センター」という。）の意見を聴して、当該学部教授会の議を経て、学部長が行う。

(他大学等の授業科目履修及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定)

第9条 学則第29条の規定により他の大学又は外国の大学において履修した授業科目についての単位の認定及び学則第30条の規定により文部科学大臣が別に定める学修を行ったときの単位の認定は、センターからの審査結果の通知に基づき、当該学部教授会の議を経て、学部長が行う。

2 前項の審査方法等については、センター長が別に定める。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、全学共通科目の履修方法等に関し必要な事項は、教育支援委員会の議を経て、センター長が別に定める。

【参考】

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

全学共通科目教育課程表（工学部 機械物理系学科）

科目区分等			単位数・履修年次				備考								
			1年		2年			3年		4年					
			前	後	前	後		前	後	前	後				
全 学 共 通 科 目	入門科目	大学入門ゼミ	必修	2											
		情報リテラシ	必修	2											
		キャリア入門	必修	1											
		データサイエンス入門	必修	1											
	計				6							6単位			
	教 養 基 幹 科 目	主題科目	人間と文化 人間と科学 人間と環境 健康と生命 世界と地域 教養ゼミナール	選択	2	2									
				2	2										
				2	2										
				2	2										
		キャリア科目													
		基 幹 分 野 目	人文・社会分野												
			自然	生物学											
				地学											
				数学											
				微分積分学Ⅰ	必修	2									
			微分積分学Ⅱ	必修		2									
			線形代数Ⅰ	必修	2										
			線形代数Ⅱ	必修		2									
		物理	物理学												
	基礎物理学Ⅰ		必修	2											
基礎物理学Ⅱ	必修			2											
化学															
化学	化学概論	選択	2												
	実験演習分野														
	物理学実験演習	必修	2									14単位以上			
計				16	12							26単位以上			
外 国 語 科 目	英語														
	コミュニケーション英語A	必修	1												
	コミュニケーション英語B	必修	1												
	実践英語A	必修		1											
	実践英語B	必修		1											
	総合英語Ⅰ・Ⅱ	必修			1	1									
	総合英語Ⅲ・Ⅳ	必修			1	1									
	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ 中国語基礎Ⅰ・Ⅱ 韓国語基礎Ⅰ・Ⅱ スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ	必修	1	1									1つの言語を選択し2単位修得すること。		
		ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ フランス語応用Ⅰ・Ⅱ 中国語応用Ⅰ・Ⅱ 韓国語応用Ⅰ・Ⅱ スペイン語応用Ⅰ・Ⅱ	選択			1	1							1年次に履修した言語を2年次に履修可能。 ※教養科目の単位として認める。	
			計			3	3	3	3					10単位以上	
健康スポーツ科目			必修	1(前期又は後期)											
計			1								1単位以上				
修得単位数合計												43単位以上			

全学共通科目の授業科目及び単位数については、「全学共通科目開設一覧表」を参照のこと。

全学共通科目教育課程表（工学部 電気情報系学科）

科目区分等			単位数・履修年次				備考						
			1年		2年			3年		4年			
			前	後	前	後		前	後	前	後		
全学共通科目	入門科目	大学入門ゼミ	必修	1									
		情報リテラシ	必修	2									
		キャリア入門	必修	1									
		データサイエンス入門	必修	1									
計				5								5単位	
	主題科目	人間と文化 人間と科学 人間と環境 健康と生命 世界と地域 教養ゼミナール	選択	2	2							基幹科目(人文・社会分野)のうち、「哲学・倫理学」「心理学」「芸術入門」「文学」から2科目4単位以上、「憲法学」「政治学」「経済学」「歴史学」から2科目4単位以上を修得すること。	
	キャリア科目			2	2								
	基幹科目	人文・社会分野										8単位以上	
	自然分野	生物学										「物理学」「数学」について、左記以外の科目は卒業に必要な単位には含まれない。	
		化学											
		地学											
		物理学											
		基礎物理学Ⅰ	必修	2									
		基礎物理学Ⅱ	必修		2								
		数学											
		微積分学Ⅰ及び演習	必修	3									
		微積分学Ⅱ及び演習	必修		3								
		線形代数学Ⅰ	必修	2									
		線形代数学Ⅱ	必修		2								
		実験演習分野											
		物理学実験演習	必修		2							16単位	
計				15	19							24単位以上	
外国語科目	英語	コミュニケーション英語A	必修	1								1つの言語を選択し2単位修得すること。	
		コミュニケーション英語B	必修	1									
		実践英語A	必修		1								
		実践英語B	必修		1								
		総合英語Ⅰ・Ⅱ	必修			1	1						
		総合英語Ⅲ・Ⅳ	必修			1	1						
		ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ 中国語基礎Ⅰ・Ⅱ 韓国語基礎Ⅰ・Ⅱ スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ	必修	1	1							1年次に履修した言語を2年次に履修可能。	
		ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ フランス語応用Ⅰ・Ⅱ 中国語応用Ⅰ・Ⅱ 韓国語応用Ⅰ・Ⅱ スペイン語応用Ⅰ・Ⅱ	選択			1	1						
計				3	3	3	3						10単位以上
		健康スポーツ科目	必修	1(前期又は後期)									1単位以上
計				1									1単位以上
修得単位数合計													40単位以上

全学共通科目の授業科目及び単位数については、「全学共通科目開設一覧表」を参照のこと。

全学共通科目教育課程表（工学部 化学バイオ系学科）

科目区分等			単位数・履修年次				備考						
			1年		2年			3年		4年			
			前	後	前	後		前	後	前	後		
入門科目	大学入門ゼミⅠ	必修	2										
	大学入門ゼミⅡ	必修		2									
情報リテラシ	情報リテラシ	必修	2										
	キャリア入門	必修	1										
データサイエンス入門	データサイエンス入門	必修	1										
	計		6	2								8単位	
全学共通科目	主題科目	人間と文化 人間と科学 人間と環境 健康と生命 世界と地域 教養ゼミナール	選択	2	2							主題科目、キャリア科目、基幹科目の「人文・社会分野」「生物学」「地学」より12単位以上修得する。 ただし、基幹科目（人文・社会分野）のうち、「哲学・倫理学」「心理学」「芸術入門」「文学」から2科目4単位以上、「憲法学」「政治学」「経済学」「歴史学」から2科目4単位以上を修得すること。 12単位以上 「数学」「物理学」「化学」について、左記以外の科目は卒業に必要な単位には含まれない。 6単位以上 2単位以上 20単位以上	
				2	2								
				2	2								
				2	2								
				2	2								
	キャリア科目				2								
		基幹科目	人文・社会分野			2							
			生物学										
			地学										
			数学										
基礎数学Ⅰ	選択		2										
基礎数学Ⅱ	選択		2										
分野科目	物理学												
	基礎物理学	選択	2										
	化学												
	基礎化学Ⅰ	必修	2										
	基礎化学Ⅱ	必修		2									
実験演習分野													
	化学実験演習	必修	2										
	物理学実験演習	選択			2								
計			16	16	2								
外国語科目	英語			1									
		コミュニケーション英語A	必修	1									
		コミュニケーション英語B	必修		1								
		実践英語A	必修			1							
		実践英語B	必修				1						
		総合英語Ⅰ・Ⅱ	必修				1	1					
	総合英語Ⅲ・Ⅳ	必修					1	1					
	（ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ 中国語基礎Ⅰ・Ⅱ 韓国語基礎Ⅰ・Ⅱ スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ）	必修			1	1							1つの言語を選択し2単位修得すること。
（ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ フランス語応用Ⅰ・Ⅱ 中国語応用Ⅰ・Ⅱ 韓国語応用Ⅰ・Ⅱ スペイン語応用Ⅰ・Ⅱ）	選択					1	1					1年次に履修した言語を2年次に履修可能。	
計			3	3	3	3						10単位以上	
健康スポーツ科目		必修			1(前期又は後期)								
計			1									1単位以上	
修得単位数合計											39単位以上		

全学共通科目の授業科目及び単位数については、「全学共通科目開設一覧表」を参照のこと。

全学共通科目教育課程表（工学部 社会システム土木系学科）

科目区分等			単位数・履修年次				備考													
			1年		2年			3年		4年										
			前	後	前	後		前	後	前	後									
全 学 共 通 科 目	入 門 科 目	大学入門ゼミ	必修	2																
		情報リテラシ	必修	2																
		キャリア入門	必修	1																
		データサイエンス入門	必修	1																
		計		6														6単位		
	教 養 基 礎 科 目	主 題 科 目	人間と文化 人間と科学 人間と環境 健康と生命 世界と地域 教養ゼミナール	選択		2	2												基幹科目(人文・社会分野)のうち、「哲学・倫理学」「心理学」「芸術入門」「文学」から2科目4単位以上、「憲法学」「政治学」「経済学」「歴史学」から2科目4単位以上を修得すること。 自然分野の地学から「地球科学(2単位)」を1年次に修得することが望ましい。 主題科目のうち、「地方創生政策体験学習」は、社会経営工学プログラムにおいては卒業に必要な単位には含まれない。	
						2	2													
						2	2													
						2	2													
						2	2													
		自 然 科 学 分 野 目	キャリア科目			2	2													
			人文・社会分野			2	2													
			生物学																	8単位以上
			化学																	
			地学																	
分 野 目	物理学																			
	力学基礎及び演習	必修				3											「物理学」「数学」について、左記以外の科目は卒業に必要な単位には含まれない。			
	数学																			
	微分積分学Ⅰ	必修	2																	
	微分積分学Ⅱ	必修		2																
目	線形代数	必修	2														9単位			
	実験演習分野																			
	地球科学実験演習	選択					2										地球科学実験演習は、土木工学プログラムにおいては修得することが望ましい。社会経営工学プログラムにおいては卒業に必要な単位には含まれない。			
	計		14	15	2												21単位以上			
外 国 語 科 目	英 語	コミュニケーション英語A	必修	1																
		コミュニケーション英語B	必修	1																
		実践英語A	必修		1															
		実践英語B	必修		1															
		総合英語Ⅰ・Ⅱ	必修			1	1													
		総合英語Ⅲ・Ⅳ	必修			1	1													
	他 の 語 科 目	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ 中国語基礎Ⅰ・Ⅱ 韓国語基礎Ⅰ・Ⅱ スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ	必修	1	1													1つの言語を選択し2単位修得すること。		
				ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ フランス語応用Ⅰ・Ⅱ 中国語応用Ⅰ・Ⅱ 韓国語応用Ⅰ・Ⅱ スペイン語応用Ⅰ・Ⅱ	選択			1	1										1年次に履修した言語を2年次に履修可能。	
								3	3										10単位以上	
								3	3											
健康スポーツ科目	必修		1(前期又は後期)															1単位以上		
	計		1														1単位以上			
	修得単位数合計																38単位以上			

全学共通科目の授業科目及び単位数については、「全学共通科目開設一覧表」を参照のこと。

21. 全学共通科目開設一覧表について

これについては、『履修案内』に詳細が記載されているので熟読しておくこと。

22. 鳥取大学における外国人留学生に対する授業科目等の特例に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、鳥取大学全学共通科目履修規則（平成5年鳥取大学規則第3号）第4条第1項の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）の授業科目の取扱いについて特例を定めるものとする。

(授業科目及び単位数)

第2条 留学生に開設する日本語・日本事情に関する授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

授 業 科 目	単 位 数	
	前 期	後 期
日本語実践Ⅰ	1	
日本語実践Ⅱ		1
日本語の表現技法Ⅰ	1	
日本語の表現技法Ⅱ		1
学部留学生のための日本語Ⅰ	1	
学部留学生のための日本語Ⅱ		1
日本文化事情Ⅰ	2	
日本文化事情Ⅱ		2
日本社会事情Ⅰ	2	
日本社会事情Ⅱ		2

(単位の認定)

第3条 留学生が前条に掲げる授業科目を履修し修得した単位は、各学部において定める修得すべき単位数のうち12単位を超えない範囲内において、次に掲げる単位として認定することができる。

- 一 教養科目（農学部共同獣医学科にあっては人文・社会科学科目群及び複合領域科目群）については、8単位までを「日本文化事情」及び「日本社会事情」の単位
- 二 外国語科目（農学部共同獣医学科にあっては外国語科目群）については、6単位までを「日本語実践」、「日本語の表現技法」及び「学部留学生のための日本語」の単位

(単位認定の申請)

第4条 前条に掲げる単位の認定を受けようとする留学生は、所定の様式を所属学部長へ提出するものとする。

- 2 前項の申請期間は、各学期の末日までとする。

附 則

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。

23. 工学部各学科の概要

(1) 機械物理系学科	-----	50
(2) 電気情報系学科	-----	58
(3) 化学バイオ系学科	-----	62
(4) 社会システム土木系学科	-----	65

(1) 機械物理系学科

1. 機械物理系学科の学習・教育目標

本学及び工学部の「卒業認定・学位授与方針」に基づき、本学科の学習・教育目標を以下のように設定します。

- (A) 機械物理系工学の学習の基礎となる数学、物理学、情報技術に加えて、専門としての機械工学、航空宇宙工学、ロボティクス、物理工学、医工学などに関する知識を身につけ、工学上の問題解決のためにそれらを活用するとともに、大学院での研究およびより高度な技術者を目指した勉学をするにふさわしい基礎能力を養成します。
- (B) 理論、実験、数値シミュレーションによる取組みを自ら計画し、結果を解析するとともに、工学的に考察する能力を養い、技術者として自分で問題を見出し解決する能力を養成します。すなわち、直面する技術的課題に対して、要求される条件と克服すべき問題点を見出し、解決への手法の選定とそれに必要な総合的な知識と技術の継続的な獲得を図り、答にたどり着くようなエンジニアリングデザイン的な素養を醸成します。
- (C) 日本語によって自分の考えを正しく伝え、相手と意思の疎通を図るコミュニケーション能力を養います。さらに、英語でのコミュニケーションを行うための基礎能力を養います。聞く、読む、話す、書くという手段により、相手の意図を的確に理解し、自分の考えを正しく相手に伝えられるようにします。
- (D) 社会や市民生活、あるいは自然との関連が深い技術者として高い倫理観を持ち、自分の仕事の社会的な意義と影響および自然や環境に及ぼす効果を理解することにより、社会に対する責任感を養成します。
- (E) 広い視野と社会的な良識を持ち、多様な価値観が共存しうることを踏まえ、人間・社会・環境のいずれにも配慮した視点を用いる能力を養成します。

2. 機械物理系学科のプログラムについて

機械物理系学科では、ものづくりの中核である機械工学プログラム、流体現象や熱エネルギーを主とする航空宇宙プログラム、メカトロニクスやロボティクスを主とするロボティクスプログラム、ものの原理・仕組みの物理・数理面を主とする物理工学プログラム、工学と医学の境界領域を主とする医工学プログラムの5つの教育プログラムを設けています。各プログラムの養成人材像は次の通りです。

(1) 機械工学プログラム

材料、設計をはじめとする種々の機械工学に対応できる人材

(2) 航空宇宙工学プログラム

航空や宇宙に関わる基礎学力を活用できる人材

(3) ロボティクスプログラム

ロボティクス、メカトロニクスを総合的に活用できる人材

(4) 物理工学プログラム

ものづくりの根幹である物理現象を深く理解し、工学的応用を指向できる人材

(5) 医工学プログラム

機械物理系の工学知識を医学分野に応用できる人材

3. GPA 制度と各種表彰・推薦制度等

学業優秀者は、学長表彰、工学部長表彰等の各種表彰制度や大学院推薦入試への推薦等により優遇されます。学業優秀者の判定には、GPA(Grade Point Average)ポイントが使われます。また、GPA ポイントはプ

プログラムの希望先の決定等にも使われます。なお、GPA 制度の詳細については、全学共通科目の履修案内を参照して下さい。

学籍番号 氏名	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
機械工学プログラム プログラム別	数学		常微分方程式Ⅱ ベクトル解析	フーリエ解析 複素関数論				
	計算科学		数値計算	数値解析学			物理シミュレーション	
	力学・ 材料力学		材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ				
	流体力学		流体力学基礎	流体力学基礎			粘性流体力学	
	統計・ 量子力学		確率過程	確率過程			量子物質科学Ⅱ	
	機械設計・ 加工・実験		機械設計製図Ⅰ 機構学	機械工作実習 機械設計製図Ⅱ	機械物理系実験Ⅰ 機械設計学Ⅰ 機械製作法		機械物理系実験Ⅱ 機械設計学Ⅱ 機械加工学	
	電磁気学		電気工学概論		電磁気学Ⅰ		電磁気学Ⅱ	
	振動波動			振動工学	振動波動の基礎数理		連続体振動の数理	
	熱・エネルギー		熱力学	エネルギー変換工学	伝熱工学		熱機関学	
	航空宇宙		航空宇宙工学概論	航空機力学			推進工学	
	材料・物性			材料科学Ⅰ	材料科学Ⅱ		材料強度学 塑性加工 物性物理学	
	制御工学			計測工学	制御工学Ⅰ		制御工学Ⅱ	
	ロボット						ロボット工学 画像情報処理 人工知能	パターン認識論
	実践教育						実践プロジェクトⅠ	実践プロジェクトⅡ
	その他					技術英語 機械物理系特別講義Ⅰ(Ⅱ)	技術者倫理	機械物理系特別講義Ⅱ(Ⅰ)
	国際実践科目Ⅰ 国際実践科目Ⅱ 英語でプレゼン					学外実習(インターンシップ)		
	学部共通							
その他 (卒業に必 要な単位 に含まな い)	教職関係科目		◎教育実習指導(中等)は3~4年次に実施 ◎中等教育実習Ⅰは3~4年次に実施 ◎中等教育実習Ⅱは4年次に実施				教育実習指導(中等) 中等教育実習Ⅰ	中等教育実習Ⅱ
	教職関係科目 (工業)		数学学習指導分析Ⅰ 算数・数学学習指導論	数学学習指導分析Ⅱ 数学学習指導設計			職業指導 工業科教育法Ⅰ 工業科教育法Ⅱ	工業概論 工業科教育法Ⅱ

学籍番号 氏名	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前	後	前	後	前	後	前	後
数学			常微分方程式Ⅱ ベクトル解析	フーリエ解析 複素関数論				
計算科学			数値計算	数値解析学			物理シミュレーション	
力学・ 材料力学			材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ	弾性力学			
流体力学			流体力学基礎	流体力学基礎	圧縮性流体力学 数値流体力学		粘性流体力学	
統計・ 量子力学			確率過程	確率過程	統計力学 量子物質科学Ⅰ		量子物質科学Ⅱ	
機械設計・ 加工・実験			機械設計製図Ⅰ 機構学	機械工作実習 機械設計製図Ⅱ	機械物理系実験Ⅰ 機械設計学Ⅰ 機械製作法		機械物理系実験Ⅱ 機械設計学Ⅱ 機械加工学 電磁気学Ⅱ	
電磁気学			電気電子工学概論		電磁気学Ⅰ			
振動波動			振動工学	振動工学	振動波動の基礎教理		連続体振動の教理	
熱エネルギー			熱力学	エネルギー変換工学	伝熱工学		熱機関学	
航空宇宙			航空宇宙工学概論	航空機力学			推進工学	
材料・物性				材料科学Ⅰ	材料科学Ⅱ		材料強度学 塑性加工 物性物理学	
制御工学				計測工学	制御工学Ⅰ		制御工学Ⅱ	
ロボット							ロボット工学 画像情報処理 人工知能	パターン認識論
実践教育					実践プロジェクトⅠ		実践プロジェクトⅡ	
その他					技術英語 機械物理系特別講義Ⅰ(Ⅱ)		技術者倫理	機械物理系特別講義Ⅱ(Ⅰ)
国際実践科目Ⅰ 国際実践科目Ⅱ 英語でプレゼン								
学部共通								
その他 (卒業に必要単位 に含まない)								
教職関係科目								
教職関係科目 (工業)								
教職関係科目 (数学)								
卒業研究								

物理工学プログラム

プログラム別

(2) 電気情報系学科

1. 電気情報系学科の学習・教育目標

鳥取大学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、本学科の学習・教育目標を以下のように設定しています。

- (1) 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚する知的・道徳的能力を養う。
- (2) 電気情報系分野の基礎知識や専門知識に基づいて総合的・系統的に思考し、新技術開発や問題解決を行う能力を養う。
- (3) 自律的・主体的・継続的に学習する能力を養う。
- (4) 論理的な記述、発表、討議などのコミュニケーション能力および他者と協働して実践する能力を養う。
- (5) 多様な価値観や地域特性、文化的背景の存在を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方ができる能力を養う。

2. 履修上の注意事項

➤ 履修に当たって

卒業までに最低限必要な修得単位数については、履修の手引きの「卒業に必要な修得単位数」の項や、詳しくは全学共通科目・専門科目の電気情報系学科教育課程表に記載のとおりです。また、専門科目の必修科目等の内訳は、2年次からの選択プログラムによって異なりますので、専門科目教育課程表で確認してください。

「科目関連表 兼 単位修得状況自己管理表」には、学年ごとの開講科目と共に、科目間の関係も示しています。また、各科目についてプログラム毎に必修・推奨・選択の区別、さらには卒業研究着手条件、卒業要件も記載されており、卒業までに必要な単位を修得するためのチェックリストとしても使えるようになっていきますので活用してください。

➤ 補講

授業回数は15回です。休講の場合は、補講を行います。補講は、5限目以降や土曜日の午前中などに実施することもあります。

➤ その他

科目の詳細についてはシラバスを参照してください。不明な点の内、個々の科目については科目担当教員に、授業時間割などカリキュラム全般に関しては学務委員に、また自身の成績など学業全般に関しては学級教員、あるいは指導教員に相談してください。

3. 電気情報系学科のプログラム

・電気電子工学プログラム

暮らしを支える「電気」の基礎から応用までを学ぶ

電気電子工学プログラムでは、電子デバイスやパワーエレクトロニクスに重点を置き、主に物理・物性、半導体・材料、電気・電子回路、電力等の学問を学ぶことにより、将来これらを駆使して情報社会の基盤となる技術に携われる人材になることを目指す。具体的には主に下記の分野を学ぶ。①電気電子現象の基礎となる物理（統計力学、電磁気学、量子力学等）。②ハードウェアを支える電子材料や電子デバイスをシステム化する回路理論（半導体、電気電子材料、電気回路、電子回路等）。③パワーエレクトロニクス（電気機器、電力等）。卒業後は、大学院進学や電気関連（電機、電子デバイス、電力等の分野）の他、情報通信・製造業における技術者・研究者として活躍することが期待される。

・コンピュータサイエンスプログラム

情報化社会を担うコンピュータの仕組みと利用法を学ぶ

コンピュータサイエンスプログラムでは、計算機科学や知識メディアに重点を置き、主に計算機、ソフトウェア、知識処理、通信等の学問を学び、計算機の仕組みを理解した上で、ソフトウェア技術を知識処理に活用して情報社会の発展に寄与できる人材になることを目指す。具体的には主に下記の分野を学ぶ。①計算機の仕組み（論理回路、計算機構成論等）。②計算機を活用するためのソフトウェア技術（データ構造とアルゴリズム、ソフトウェア工学、並列・分散プログラミング等）。③ソフトウェア技術を知識処理に活用する方法（データベースと情報検索、画像情報処理等）。卒業後は、大学院進学や情報通信（ソフトウェア、通信等の分野）の他、電気・製造業における技術者・研究者として活躍することが期待される。

・電子情報制御システムプログラム

人・環境を取り巻く情報を処理・制御する方法を学ぶ

電子情報制御システムプログラムでは、システム制御や情報通信に重点を置き、主に電気・電子回路、制御、ロボット、通信、信号処理等の学問を学び、これらに関わる専門知識を活用して情報システム分野で活躍できる人材になることを目指す。具体的には主に下記の分野を学ぶ。①情報通信・システム制御の基礎となる回路理論（論理回路、電気回路、電子回路等）。②システム制御や通信・信号処理に関わる学問（制御工学、ロボット制御実習、情報理論、信号処理工学、情報通信工学等）。③システム開発に役立つ学問（数値計算法、データ構造とアルゴリズム、組み込みシステム、信号処理プログラミング演習等）。卒業後は、大学院進学や情報通信（通信、システム制御等の分野）の他、電気・製造業における技術者・研究者として活躍することが期待される。

・医工学プログラム

電気情報系分野の技術を基盤とした医学と工学の融合技術を学ぶ

医工学プログラムでは、電気情報系分野の技術を軸足とした上で医工学を理解することに重点を置き、主に電気・電子回路、制御、ロボット、医工学技術等の学問を学び、これらに関わる専門知識を活用して医工学分野で活躍できる人材になることを目指す。具体的には主に下記の分野を学ぶ。

①システム制御や回路の基礎に関わる理論（論理回路、電気回路、電子回路、制御工学、計算機構成論等）。②医療機器開発に役立つ学問（半導体、電気電子材料、数値計算法、信号処理プログラミング演習等）。③医工学に関わる理論（人体の構造と機能、医工技術概論、医工融合実践プロジェクト、健康と生体情報等）。卒業後は、大学院進学や医工学（医療機器開発、医療システム分野）の他、電気・製造業における技術者・研究者として活躍することが期待される。

(3) 化学バイオ系学科

1. 化学バイオ系学科の教育目的

本学科は、化学および生物工学分野における学術研究を行い、「人としての理想を求める工学」を追求するとともに、そこで得られた知識、知恵および研究遂行体験に基づいた教育を行う。

2. 化学バイオ系学科の教育目標

本学科は、化学と生命科学を基盤として、人間が社会で生活する中で自然環境と調和しながらより豊かで快適な生活を獲得するために必要な分子・物質・材料に関する学術研究を行っています。本学科の1年次では学科共通科目として有機化学・物理化学・無機化学・分析化学・生物学などの基礎科目を修得します。その後、「合成化学」、「材料化学」、「グリーンケミストリー」、「バイオサイエンス」、「バイオテクノロジー」、「医工学」の各プログラムに所属され、それぞれに特色のある教育を行う。各プログラムの養成人材像を以下に示す。

・合成化学プログラム

薬品・化成品・高分子材料・生体機能材料などを自在に分子設計・合成・評価することにより、未来の医薬品開発や化学プロセス工業に貢献できる人材を養成する。

・材料化学プログラム

新規な有機・無機材料を創製し、機能性を評価することにより、化学的視点から次世代エネルギー問題や環境問題を解決できる能力を有する人材を養成する。

・グリーンケミストリープログラム

化学ならびに生命科学の基礎知識を習得し、化学と生命科学にまたがる視点から、生体触媒や有機触媒などを活用するグリーン反応プロセスで環境問題を解決するために貢献できる人材を養成する。

・バイオサイエンスプログラム

化学ならびに生命科学の基礎知識を習得したうえで、化学的、物理的な視点から生命現象を解明し、次世代の医療やバイオテクノロジーの開発基盤を提供できる人材を養成する。

・バイオテクノロジープログラム

化学ならびに生命科学の基礎知識を習得したうえで、エネルギーや環境問題に対して微生物を中心とした生物の機能を最大限に利活用した解決策を提案できる人材を養成する。

・医工学プログラム

化学ならびに生命科学の基礎知識を習得したうえで、がん薬物療法、再生医療等と関連付けられる高度医療現場において、医工連携に長けた人材を養成する。

化学バイオ系学科の学習・教育目標の具体的項目を、以下に示す。

(A) 地球環境について技術者の立場から考える能力を養う。

- (B) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を養う。
- (C) 社会規範、倫理観を持ち、技術者としての応用力を養う。
- (D) 物理化学の基礎知識を身につけ、化学反応解析や触媒設計に応用する能力を養う。
- (E) 有機化学の基礎知識を身につけ、有機材料工学や高分子工学に応用する能力を養う。
- (F) 無機化学の基礎知識を身につけ、無機材料工学や電子材料工学に応用する能力を養う。
- (G) 分析化学の基礎知識を身につけ、化学構造分析や生体物質構造分析に応用する能力を養う。
- (H) 生体内で進行する反応に関する基礎知識を身につけ、応用する能力を養う。
- (I) 環境調和を目指した微生物応用を可能にする基礎的知識を身につけ、説明できる能力を養う
- (J) タンパク質、遺伝子の構造と機能などの生命分子科学に関する知識を身につけ、応用する能力を養う。
- (K) 人体の構造、生体情報と健康に関する知識を身につけ、医工連携に応用する能力を養う。
- (L) 応用化学実験・生物学実験を通じて実験の実行、データ解析、およびレポート作成能力を身につける。
- (M) 卒業研究や実験を通じて、論理的に記述、議論する能力や発表能力を養う。
- (N) 卒業研究や実験を通じて、計画的に物事を遂行する能力を養う。
- (O) 卒業研究や実験を通じて、自主的、継続的に物事に取り組む能力を養う。

3. カリキュラム

化学および生物工学の関与する分野は広範、多岐にわたります。全ての分野を網羅して教育することは到底できません。また、現代工業の進展の早さを考え合わせると、一つの先端分野に偏った教育を行うことは意味がないことです。このため、本学科のカリキュラムは化学・生命科学の基礎的事項を重視し、また、断片的知識の集積に留まらず、系統的、総合的な思考、自立的学習能力の獲得を可能とするように配慮しています。

本学科のカリキュラムマップは次頁に掲載していますので、学修成果の確認等に活用してください。

◎ 化学バイオ系学科 カリキュラムマップ

★は全プログラム必修科目 ☆はプログラム別必修科目 #は1単位の科目

	1年			2年			3年			4年	
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期
入学科目	★大学入門ゼミ I	★大学入門ゼミ II									
	★情報リテラシ										
	★キャリア入門										
	★データサイエンス入門										
	★健康スポーツ	(★健康スポーツ)									
	★#コミュニケーション英語A	★#実践英語A	★#総合英語 I	★#総合英語 II							
	★#コミュニケーション英語B	★#実践英語B	★#総合英語 III	★#総合英語 IV							
	★#第二外国語基礎 I	★#第二外国語基礎 II	★#第二外国語応用 I	★#第二外国語応用 II							
	★#第二外国語基礎 III										
	★#第二外国語基礎 IV										
教養科目*	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)	★#キャリア・基礎科目(数学・物理学・化学以外)
教養科目*	★基礎化学 I	★基礎化学 II									
教養科目*	基礎数学 I	基礎数学 II									
教養科目*	基礎物理学										
教養科目*	★化学実験演習										
分析化学系	★分析化学 I	分析化学 II									
物理化学系	物理化学 I	物理化学 II									
無機化学系	無機化学 I	無機化学 II									
有機化学系		★有機化学 I	★有機化学 II								
応用化学実験・演習			★応用化学実験 I	★応用化学実験 II							
生命医学系			★人体の構造と機能	★生命科学概論 I							
生物科学系		★生化学 I	★生化学 II	★分子生物学	★生体分子化学 I						
生物工学			★微生物学	★環境微生物工学	★食品微生物工学	★生化学実験計画法	★生化学実験計画法	★生化学実験計画法	★生化学実験計画法	★生化学実験計画法	★生化学実験計画法
生物工学実験・演習				★生物工学実験 I	★生物工学実験 II	★生物工学実験 III					
倫理・英語特別講義他			★基礎科学英語		★#工学倫理						
卒業研究											★卒業研究(10単位)
備考	<p>* 教養科目については科目別に選択必修科目が設定されていますので、全学共通科目教育課程表を必ず参照すること。</p> <p>・ 2年次のプログラム分属には、全学共通科目と専門科目を合わせて20単位以上修得している必要があります。</p> <p>・ プログラム分属されない者は、2年次以上の専門科目を履修できませんので留年となります。</p> <p>・ 卒業研究着手条件を満たさない者は、4年次以上の専門科目を履修できません(留年となります)。</p> <p>・ 卒業研究着手(4月に限る)の条件は、原則として次の(1)(2)(3)または(1)(2)(4)または(1)(2)(5)の条件を満たしていること。</p> <p>(1) 全学共通科目の卒業に必要な単位(39単位)を全て修得していること。</p> <p>(2) 専門科目を69単位以上修得し、かつ専門科目の必修科目を21単位以上修得していること。</p> <p>(3) 合成化学プログラム・材料化学プログラム・グリーンケミストリープログラム・生体分子化学プログラム・生化学実験Ⅰ～Ⅳを全て修得していること。</p> <p>(4) バイオサイエンスプログラム・バイオテクノロジープログラム・バイオインフォマティクスプログラムでは、生物工学実験Ⅰ～Ⅳを全て修得していること。</p> <p>(5) 医学プログラムでは、生物工学実験Ⅰ～Ⅳおよび医学融合実験プロジェクトを全て修得していること。</p>										

(4) 社会システム土木系学科

1. 社会システム土木系学科の特徴と教育内容

自然と調和した安全安心で持続可能な社会の構築においては、交通基盤やライフラインなどの建設により社会資本を創造し、人々の生活や社会経済の営みのデザイン・マネジメントに関わる社会システム土木系分野の幅広い知識と技術が必要です。国土と地域社会の計画・建設・管理に必要な社会基盤の設計・建設から社会の仕組みに関わる幅広い専門知識と技術を教育研究し、社会の構築に貢献できる人材を育てます。

その教育内容は、社会システム工学と土木工学を融合して、社会基盤構造物の設計・建設・維持管理、人口減少や高齢化対応の社会計画、自然災害による影響の軽減、環境調和型地域デザイン、製品やソフトウェアの品質管理などに関わるハードからソフトまで幅広くカバーしています。人口減少・高齢化などに対応した社会のプランニングを主とする社会経営工学プログラムと、現代社会を支える社会基盤構造物の設計・建設技術を主とする土木工学プログラムの2つを設けています。

2. 教育プログラムの学習・教育到達目標

社会経営工学プログラムの学習・教育到達目標	土木工学プログラムの学習・教育到達目標
<p>(A) 既存の工学に加えて、人文、社会科学などの幅広い分野での基礎知識を備え、それらを用いて世の中の問題を多様な角度からとらえることができる。</p> <p>(B) 多様な人の意見を聞き、内容を理解し疑問点を整理する能力と自らの意見を表現する能力を身につけている。</p> <p>(C) 多様な人から構成されるチームにおいて、自主的な学習や他者との協働といった自他のとるべき行動を、与えられた制約条件に基づいて判断し、実行することができる。</p> <p>(D) 過去の具体的な事例などを通して技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者の役割と責任について理解し、実務において倫理的な評価・判断ができる能力を身につけている。</p> <p>(E) 多様な方法で情報を収集・整理し、情報技術を活用してデータの特徴をまとめることができる。</p> <p>(F) 確率・統計、微分方程式、力学といった、数学、物理の基礎知識を身につけている。</p> <p>(G) 社会的な課題を調査、分析する方法を身につけ、新たな解決方法を提案することができる。</p> <p>(H) 多様な考え方に基づいてシステムの企画・立案、設計、評価、改善を検討することができる。</p> <p>(I) 考えや得られた成果を論理的な文章にまとめ、その内容を聞き手にコンパクトに分かりやすく発表することができる能力を身につけている。</p>	<p>(A) 土木技術者として人類の福祉と自然環境との調和に貢献できるように、自然科学、人文社会科学などを学び、自然、人間、社会、環境に関わる多面的な知識と柔軟な思考力を身に付ける。[多面的な知識と柔軟な思考力]</p> <p>(B) 口頭または文書により、また図表や映像などを用いて、意図することを相手に正しく伝えることができ、さらに討議できるコミュニケーション能力を身に付ける。情報の内容は根拠に基づき、正しく、詳細かつ適切に取りまとめられ、字句、句読点、文法および用法が適切であることが必要である。また、必要に応じて、情報が相手に適切に伝達されているか確認する習慣を身に付ける。[コミュニケーション能力]</p> <p>(C) 土木技術者が自然および社会に及ぼす影響・効果を正しく理解し、その社会的役割と責任を自覚する。土木技術者倫理規定を理解し、実例について学習し、実務において倫理的な評価・判断ができる能力を身に付ける。[技術者としてのキャリアと倫理]</p> <p>(D) 土木工学に関連する数学、物理・地学、情報技術などの基礎知識を習得し、土木工学の専門知識を習得するための基礎能力を身に付ける。演算を筆記により正確に行うことができ、必要に応じて検証する。[数学、物理・地学、情報技術などの基礎知識]</p>

	<p>(E) 土木工学の専門基礎分野としての、構造工学、地盤工学、水工水理学、材料学、測量学の基礎知識を、講義、課題を通して習得し、土木施設および土木構造物の調査、計画、設計、建設、維持管理などを実行するために必要な基礎的能力を身に付ける。[土木工学の基礎知識]</p> <p>(F) 土木工学に関わる現象について、実験を計画、遂行・解析・考察する能力、および時間内に実験を進め、結果をとりまとめレポートを作成し、報告できる能力を身に付ける。また、共同作業における個々の役割を認識し、協調して行動できる能力を身に付ける。[実験の計画・遂行・解析と考察]</p> <p>(G) 土木工学に関わる上記の基礎知識を応用かつ駆使できるよう演習を通して多くの課題に取り組み解決し、自己学習の習慣を身に付け、かつ成果を文書や図表により取りまとめ、報告、発表、討議できる能力を身に付ける。[演習による基礎知識の理解と応用]</p> <p>(H) 土木工学に関わる基礎知識を基に、実務の基礎知識を習得し、土木分野における課題を探求し、組み立て、解決する基礎能力を身に付ける。[実務の基礎知識の習得]</p> <p>(I) 社会の変化を迅速に察知し、身に付けた知識をもとに自ら課題を発見し、その課題を解決するための研究・プロジェクトを計画・遂行し、その結果をまとめ、発表できる能力およびこれらをチームで実践できる能力を身に付ける。[課題の発見と解決能力]</p>
--	---

4. 各学習・教育目標を達成するためのカリキュラムマップ

社会システム土木系カリキュラムマップ									
授業科目名									
分野	1年		2年		3年		4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人文社会系	人文・社会分野 (等)	人文・社会分野 (等)	主題科目	主題科目	主題科目	主題科目			
語学系	コミュニケーション英語 A, B その他の外国語	実践英語 A, B その他の外国語	総合英語 I, III その他の外国語	総合英語 II, IV その他の外国語					
キャリア系	大学入門ゼミ キャリア入門 データサイエンス入門			社会経営工学特別講義 I 社会経営工学特別講義 II	技術者倫理 インターンシップ	土木特別講義 I 土木特別講義 II			
数学・物理学系	微分積分学 I 線形代数学	微分積分学 II 常微分方程式 数学総合演習 確率統計基礎 現象解析基礎	統計学						
			行動モデリング 応用数学						
プログラミング系		力学基礎及び演習 数値解析	固体力学基礎 流体力学基礎			数値力学解析			
	情報リテラシー 計算機システム 演習								
構造・土木材料系			構造力学 I 及び演習	構造力学 II 及び演習 建設材料学	コンクリート構造学及び演習 構造振動学 構造・材料実験	鋼構造学 コンクリート工学			
				水理学 I 及び演習	水理学 II 及び演習 水工計画学	水理学実験 海岸工学			河川工学

地盤・岩盤系				土質力学Ⅰ及び 演習	土質力学Ⅱ及び 演習	地盤工学	岩盤力学 建設施工学 土質力学実験 地震工学		
地圏系	地球科学			土木地質学 地球科学実験演 習	物理探査基礎			地球環境情報工 学	
建設実務基礎系				測量学 測量学演習 建設法規	建築製図 応用測量学	学外実習			
情報処理系				プログラミング 演習	応用数値解析及 び演習	データサイエ ンス			
経営管理系				数理計画法及び 演習 確率システム工 学	経営工学概論 品質管理工学Ⅰ	オペレーション ズ・リサーチ	財務・会計学 品質管理工学Ⅱ		
公共政策系					マイクロ経済学 ゲーム理論	公共政策論Ⅰ及 び演習 土木計画学	公共政策論Ⅱ 交通計画学 都市・地域計画 学		
防災・環境系				景観工学	リスクマネジメ ント	防災計画工学 基礎水理学 構造・材料学 廃棄物・環境リ スク管理 環境計画学及び 演習	建設工学及び演 習 上下水道・水質 管理		
プロジェクト系				プロジェクトマ ネジメント 社会調査プロジ ェクト 地方創生プロジ ェクト	応用システム工 学及び演習 地方創生プロジ ェクト	土木・社会経営 プロジェクト	ものづくり実践 プロジェクト		

社会システム土木系カリキュラムマップ内の下線付き科目ならびに卒業研究には、下表に記載の通り、受講要件が課されている。注意のこと。

受講要件を課す科目	開講年次	受講要件内容
学外実習	3年次・前期	<ul style="list-style-type: none"> ・測量学，測量学演習の単位を修得していること。 ・構造力学Ⅰ及び演習，構造力学Ⅱ及び演習，水理学Ⅰ及び演習，土質力学Ⅰ及び演習，土質力学Ⅱ及び演習，建設材料学の6科目の受講歴を有し，この内，4科目以上の単位を修得していること。
構造・材料実験	3年次・前期	構造力学Ⅰ及び演習，建設材料学の2科目の受講歴を有すること。
水理学実験	3年次・後期	水理学Ⅰ及び演習，あるいは水理学Ⅱ及び演習の受講歴を有すること。
土質力学実験	3年次・後期	土質力学Ⅰ及び演習，土質力学Ⅱ及び演習の2科目の受講歴を有すること。
卒業研究	4年次・通年	(卒業研究着手条件記載欄を参照)

建築士受験資格関連科目は，土木工学プログラム履修者のみ受講が認められる。下表に従い受講のこと。なお，卒業所要単位内には含まれない。

建築士受験資格関係科目	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
建築士受験資格関係科目			建築計画Ⅰ	建築史 建築設備 建築計画Ⅱ	建築設計Ⅰ 建築環境工学	建築設計Ⅱ	建築設計Ⅲ インテリア計画	

建築士受験資格関連科目には，下表に記載の通り受講要件が課されている。注意のこと。

受講要件を課す科目	開講年次	受講要件内容
建築計画Ⅱ	2年次・後期	建築計画Ⅰの受講歴を有していること。
建築設計Ⅰ	3年次・前期	建築計画Ⅰ，建築計画Ⅱ，建築史，建築設備，構造力学Ⅰ及び演習，構造力学Ⅱ及び演習の6科目の受講歴を有し，この内，4科目以上の単位を修得していること。
建築設計Ⅱ	3年次・後期	建築設計Ⅰの受講歴を有していること。
建築設計Ⅲ	4年次・前期	建築設計Ⅰ，建築設計Ⅱの受講歴を有していること。

24. 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科の概要	-----	70
鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科の基本方針	-----	72
鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻履修規程	-----	76

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科の概要

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科では、専門分野における高度な知識・技術と実践的能力に加え、本学の強み・特色を活かし、地球規模の課題と地域の課題を対象に持続性社会創生に関わる専門分野を超えた幅広い知識に基づく俯瞰的な思考力を身につけ、国内外の社会の様々な場において、持続性社会創生に向けてのイノベーション創出に貢献できる高度専門職業人を養成します。

本研究科は博士前期課程として、次の4専攻を置く。

- 地域学専攻
 - ・地域創生コース
 - ・人間形成コース
- 工学専攻
 - ・機械宇宙工学コース
 - ・情報エレクトロニクスコース
 - ・化学バイオコース
 - ・社会システム土木コース
- 農学専攻
 - ・里地里山環境管理学コース
 - ・植物菌類生産科学コース
 - ・農芸化学コース
- 国際乾燥地科学専攻
 - ・一般コース
 - ・特別コース

■専攻の案内

【地域学専攻】

人口減少・高齢化社会、グローバル化時代に向けた持続的な社会の創生に当たっては、地域の人々の生活、文化、教育等の社会の仕組みづくりに関わり、対応できる知識と能力をもった人材が求められています。

地域学専攻は、このような社会のニーズに対応するべく、地域の諸課題を科学的・学際的かつ実践的に探求することを通じて、地域を総合的に把握する能力や高度で専門的な知識・技術を修得し、住民参加による活気あふれる地域、人々が生涯にわたり生き生きと学習し成長できる地域、歴史的に形成されてきた文化や環境を大切にす個性豊かな地域の創造を担う人材を養成します。また、専門を超えた教員からも指導を受けることができる教育体制をとっています。

【工学専攻】

工学専攻は、社会が求める「伝統的工学に関する高度な知識・技術に加え、多様化するニーズに対応できる異分野技術を融合利用する素養を備えた人材」に対応すべく、他分野との連携を積極的に推進できるように、工学系の「先端ものづくり技術」、「高度情報社会技術」、「高度な化学バイオ技術」、「生存基盤を支える社会技術」を体系的かつ高度な専門性が修学できるように分野毎に区分された教育課程を設けています。また、専門を超えた教員からも指導を受けることができる教育体制をとっています。

【農学専攻】

現在の農学は、作物の生産だけでなく加工から流通に至るまで総合的に関わる 6 次産業農業、有用な生物資源を見つけて創薬などに結びつけるバイオテクノロジー、生命の生存基盤である自然環境の保護や資源の再生、農林業による地方創生など、対象とする分野が多岐にわたってきています。このような諸問題に、幅広い知識・技術を活用し総合的に対応できる人材が求められています。

農学専攻は、このような社会のニーズに対応するべく、生物資源の取り扱いに関する正しい知識と倫理感を備え、先進的な生物生産技術、バイオテクノロジーや環境保全・修復技術、経済的・経営的分析に関する知識と技術を修得し、問題点を多角的に捉える学際性をもって地域と地球の持続的な発展に貢献する人材を養成します。また、専門を超えた教員からも指導を受けることができる教育体制をとっています。

【国際乾燥地科学専攻】

森林の消滅と砂漠化の進行が世界の大きな問題となっており、その解決には砂漠化防止の他に、農業や工業開発、生活環境の改善など幅広い対策が求められています。

国際乾燥地科学専攻は、このような世界的ニーズに対応するべく、乾燥地における農業、環境保全に関する知識・技術、併せて多様な文化や住民の生活の質に関わる乾燥地の住民の人間開発分野を取り込み、乾燥地の農業・環境保全から地域開発までの教育研究体制のもとで、地球規模で生じている自然及び人類的課題の解決策をグローバルな視点によって導き出し、自然と調和する循環型社会の創生のために国際的に活動できる人材を養成します。また、当該分野の世界のトップサイエンティスト（招聘教授）による先端研究の講義を取り入れるとともに、英語のみで履修する特別コースを設け、留学生へ対応しています。

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科の基本方針

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科博士前期課程では、本研究科の教育目的を踏まえ、学生が本研究科の定める科目を履修し、所定の単位を修得して論文等審査及び試験に合格し、次の能力を身につけたときに学位（修士）を授与します。

1. 持続性社会の創生に資する広い視野と深い学識を有し、問題の発見と解決に繋がる研究遂行能力または高度な専門性が求められる職業に従事する能力を有している。
2. 高い倫理観を有し、地域学、工学、農学または国際乾燥地科学の発展に貢献する能力を有している。
3. 持続性社会を創生するための問題に関連する情報を集約し、それぞれの専門性を生かし、他分野とも連携できるコミュニケーション力を有し、実践的でグローバルに社会で活躍できる能力を有している。

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻では、本専攻の教育目的を踏まえ、学生が本専攻の定める所定の単位を修得し、修士論文または特定の課題についての研究の成果に対する審査及び試験に合格して、次の能力を身につけたときに修士（工学または学術）を授与します。

1. 工学分野の幅広い視野と深い学識を有し、工学分野の研究や技術開発に係る職業に従事することを通して社会貢献できる能力を有している。
2. 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を有している。
3. 論理的な記述、発表、討議などのコミュニケーション力を有し、問題の発見と解決に繋がる研究遂行能力を有している。

なお、本専攻では修士（工学）を授与することを基本としていますが、学生の研究が他領域も含んだ内容となることも想定しており、その場合は学生の履修内容や修士論文等の内容を審査した上で、修士（学術）を授与することとします。

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科博士前期課程では、学位授与の方針で示す能力を学生が身につけることができるよう、次に掲げる方針のもと、本研究科において体系的な教育課程を編成し、実施します。

1. 教育課程・教育内容
 - ・深い学識を身につけるための展開科目と基幹科目からなる専門科目、広く俯瞰的視野を獲得するための基盤科目と超領域科目からなる研究科共通科目を設け、体系的な教育課程を編成します。
 - ・専門に関わる実践的能力を養うため、実践的演習・実習科目や研究指導に関わる科目を配置します。
 - ・研究遂行に必要な高い倫理観を養うため、必修科目として研究者倫理に関わる科目を設けます。
2. 教育方法
 - ・高度なコミュニケーション力を育成するため、専門分野を異にする学生が交流できる機会を提供します。
 - ・課題の発見・解析・解決・説明の総合能力を向上させるため、講義、実践的演習・実習や個別指

導を組み合わせることで授業を展開します。

- ・専門性の異なる複数の教員の研究指導により、高度な課題発見・解決力の修得を目指します。

3. 学修成果の評価

- ・各専攻の定める成績評価基準に基づき、各科目の学修成果を評価します。
- ・修士論文審査では、各専攻の定める学位論文審査基準に基づき、学修成果を評価し、さらに修士論文等の新規性と独創性を審査会で厳正に評価します。
- ・学生の学修成果とアンケートをもとに、教育課程を検証します。

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻では、学位授与の方針で示す能力を学生が身につけることができるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

1. 教育課程・教育内容

- ・深い学識を身につけるための展開科目と専攻共通科目からなる専門科目、広く俯瞰的視野を獲得するための基盤科目と超領域科目からなる研究科共通科目による体系的な教育課程を編成します。
- ・工学分野の高度で深い学識を体系的に修得させるために、展開科目を設けます。
- ・学生の学問的関心を喚起し、広い視野と学識を獲得させるために、専攻共通科目を設けます。
- ・研究遂行に必要な高い倫理観を養うため、必修科目として研究者倫理に関わる科目を設けます。

2. 教育方法

- ・当該分野における講義、実験及び演習を体系的に組み合わせた授業を通じて、課題の発見・解析・解決能力及び、社会実践能力の形成を目指します。
- ・専門性の異なる複数の教員の研究指導により高い倫理観とコミュニケーション力を育成します。

3. 学修成果の評価

- ・専攻の定める成績評価基準に基づき学修成果の評価を行い、修士論文等の新規性と独創性等を専攻の定める学位論文審査基準に基づく審査及び最終試験で厳正に評価します。
- ・学生の学修成果とアンケートをもとに、教育課程を検証します。

<入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）>

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科博士前期課程では、次のような人を広く受け入れます。

1. 地域学、工学、農学または国際乾燥地科学に関する学士課程の専門知識・技術等を身につけている人
2. 持続性社会の創生に対する地球規模の課題と地域の課題に関して、幅広い視野と深い知識の修得を志す人
3. 高い倫理観を身につけて、持続性社会の創生と発展に他者と共同して貢献することを志す人
4. 持続性社会を創生するために、それぞれの専門性を生かし、他分野との連携を図るコミュニケーション力を身につけようとする人

各専攻等では、これらの人を受け入れるため、多角的かつ総合的な評価による入試の機会を設けます。

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻では、次のような人を広く受け入れます。

1. 機械宇宙工学、情報エレクトロニクス、化学バイオまたは社会システム土木に関する学士課程相当の専門知識・技術等を身につけている人

2. 工学分野の多様化するニーズに対応できる知識・技術を学び、研究活動を通じて両者を調和させて一体化することのできる広い視野と深い学識を身につけた技術者・研究者を目指す人
3. 高い倫理観を身につけて、持続性社会の創造と発展に貢献する高度の専門性を有する技術者・研究者を目指す人
4. 持続性社会を創生する工学の問題に挑み、対処するための高度な課題発見・解決力とコミュニケーション力を身につけようとする人

工学専攻ではこれらの人を受け入れるため、一般入試、推薦入試、社会人特別入試などにより、多角的かつ総合的な評価による選考を行います。

工学専攻 アドミッションポリシー (別表) : 選抜方法と求める人材像との関連

入試方法及び選抜方法	推薦入学特別入試		一般入試・飛び級入試				社会人特別入試		外国人留学生特別入試			
	出願書類 (推薦書, 成績証明書, TOEIC スコアを 含む)	個別試験 (面接(口 頭試問を 含む))	出願書類 (志望理由書, 成績証明書を 含む)	TOEIC スコア	その他の 出願書類	個別試験		出願書類 (志望理 由書,成績 証明書,推 薦書,研究 計画書を 含む)	面接	出願書類 (成績証 明書を含 む)	個別試験	
						学力検査	面接				学力検査	面接
機械宇宙工学, 情報エレクトロニクス, 化学バイオまたは社会システム土木に関する学士課程相当の専門知識・技術等を身につけている人 工学分野の多様化するニーズに対応できる知識・技術を学び, 研究活動を通じて両者を調和させて一体化することのできる広い視野と深い学識を身につけた技術者・研究者を 目指す人 高い倫理観を身につけて, 持続性社会の創造と発展に貢献する高度の専門性を有する技術者・研究者を 目指す人 持続性社会を創生する工学の問題に挑み, 対処するための高度な課題発見・解決力とコミュニケーション力を身につけようとする人	◎	○		○		◎	◎	○		○	◎	
		◎			○							○
アドミッションポリシー												

◎ : 大いに該当している ○ : 該当している

鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科 工学専攻履修規程

第1条 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻の修了の要件は、2年以上在学し、30単位以上修得するとともに、研究指導を受けて学位論文を作成し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者と工学専攻会議において認めた場合には、1年以上在学すれば足りるものとする。

第2条 教育課程表は別表1又は別表2のとおりとし、学生は履修する授業科目について必要に応じて指導教員の指導を受け、履修する。

2 各コースの教育課程表外の授業科目は、当該コースの定めるところにより、コース主任の許可を得て履修することができる。

第3条 指導教員は、毎年度、学生が作成した研究計画に基づき、所定の期日までに別紙様式1の研究指導計画書を作成し、学生に明示するものとする。

2 指導教員は、毎年度、所定の期日までに別紙様式2の研究指導報告書を作成するものとする。

第4条 学生は、毎学期所定の期日までに、別表1又は別表2に基づき、履修しようとする授業科目を登録しなければならない。

第5条 学生は、最終年次において、コース主任の指示する期日までに、学位論文を提出しなければならない。

第6条 本専攻入学前または在学中に、他の大学院または外国の大学院にて修得した単位を教育上有益と認めるときは、6単位を超えない範囲で課程修了の要件となる単位として認定することができる。

2 前項の場合において、単位制をとらない他の大学院または外国の大学院における学修成果の単位換算は、授業時間数及び授業形式等を勘案し行うものとする。

第7条 (略)

附 則 (略)

附 則

1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。

2 令和6年3月31日以前の入学者については、この規程による改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻 教育課程表

科目区分	単位区分	授業科目	単位数	週授業時間数								担当教員	隔年開講科目	教職	備考				
				1年				2年											
				Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4								
基礎科目	選択	※持続性社会創生科学概論1	1	2												3単位以上を修得すること			
		※持続性社会創生科学概論1(E)	1			2													
		持続性社会創生科学概論2	1		2														
		持続性社会創生技術論1	1	2															
		持続性社会創生技術論2	1		2														
		起業・知財論	1		2														
		※研究者倫理	1	2															
	必修	※研究者倫理(E)	1			2													
		国際乾燥地科学特論Ⅰ(環境)	2		4														
	研究科共通科目	環境	国際乾燥地科学特論Ⅱ(食糧・農業)	2		4											3単位以上を修得すること		
			生命環境農学特論Ⅰ(里地里山環境)	2	4														
			生命環境農学特論Ⅱ(生産資源環境)	2	4														
			生命環境農学特論Ⅲ(生命環境科学)	2	4														
			グリーンサステナブルケミストリー特論	1			2												
			バイオ資源特論	1	2														
			エネルギー化学特論	1	2														
			再生可能エネルギー特論	1		2													
			先進機械宇宙システム特論	1			2												
			地域経済学特論Ⅰ	2	4														
		地域	地域経済学特論Ⅱ	2			2	2											
戦略的経営論			1	2															
マーケティング特論			1		2														
スマート社会技術論			1		2														
自然災害科学概論			2		4														
国際乾燥地科学特論Ⅲ(人間開発)			1		2														
国際協力特論			1			2													
国際交流と異文化理解(E)			1				2												
コミュニティ特論			2			2	2												
文化多様性特論			2	2	2														
グローバル	比較国際教育特論	2	4																
	社会教育学特論	2			2	2													
	人権教育特論	2			2	2													
	◇特別学外実習	1					3												
	◇長期特別学外実習	3						9											
	◇国際連携特別研究	3							9										
	専攻共通科目	選択	◇機械宇宙工学特別講義Ⅰ	1		1				1									
			◇機械宇宙工学特別講義Ⅱ	1		1				1									
			◇情報エレクトロニクス特別講義Ⅱ	1		1													
			◇化学バイオ特別講義Ⅰ	1		1				1									
◇化学バイオ特別講義Ⅱ			1		1				1										
◇社会システム土木特別講義Ⅰ			1			1				1									
◇社会システム土木特別講義Ⅱ			1			1				1									
◇地域参加型研究プロジェクト			1		2														
専門科目			展開科目	機械宇宙工学コース	材料科学特論	2		4											機械宇宙工学コースの学生は18単位以上を修得すること
					高温気体力学	2			4										
	遅い流れの流体力学	2			4														
	航空宇宙流体力学	2					4												
	ナノライボロジー特論	2					4												
	数理生物学	2					4												
	機械システムダイナミクス	2					4												
	伝熱工学特論	2			4														
	材料強度学特論	2					4												
	破壊力学	2			4														
	設計工学特論	2					4												
	機械加工学特論	2					4												
	塑性力学特論	2					4												
	生体計測工学特論	2					4				4								
	応用数学特論Ⅰ	2				4													
	応用数学特論Ⅱ	2			4														
	対称性の数理Ⅰ	2		4															
	対称性の数理Ⅱ	2			4														
	物理数学基礎Ⅰ	2			4														
	物理数学基礎Ⅱ	2			4														
	プラズマ物理学基礎	2			4														
	結晶成長物理学	2			4														
	宇宙推進工学	2		4															
	機械力学特論	2	4																
	固体量子物性特論	2		4															
	ロボット制御特論	2		4															
	構造材料評価特論	2			4														
	ソフトマター科学	2			4														
	◇機械宇宙工学実験及び演習Ⅰ	4				8													
	◇機械宇宙工学実験及び演習Ⅱ	4							8										

科目区分	単位区分	授業科目	単位数	週授業時間数								担当教員	隔年開講科目	教職	備考			
				1年				2年										
				Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4							
情報エレクトロニクスコース	選択	計算インタラクション特論	2				4				4		岩井 儀雄	○	情報	情報エレクトロニクスコースの学生は18単位以上を修得すること		
		パターン処理特論	2				4				4		岩井 儀雄	○	情報			
		機械学習特論	2				4						青木 工太		情報			
		制御理論特論	2			4							竹森 史暁		工業			
		デジタル信号処理工学	2	4									中西 功		工業			
		電力工学特論	2	2	2								西村 亮		工業			
		量子力学	2	4									阿部 友紀		工業			
		固体物性論	2			4							市野 邦男		工業			
		応用数理解析特論	2			4							吉村 和之		情報			
		ソフトウェアアーキテクチャ特論	2				4						川村 尚生		情報			
		パターン認識特論	2	4									西山 正志		情報			
		情報ネットワーク特論	2			4							高橋 健一		情報			
		情報セキュリティ特論	2	4									東野 正幸		情報			
		ソフトコンピューティング論	2		4								徳久 雅人		情報			
		自然言語処理特論	2			4					4		村田 真樹	○	情報			
		言語情報資源特論	2			4					4		村田 真樹	○	情報			
		人工知能特論	2		4								清水 忠昭		情報			
		生物情報学特論	2			4							木村 周平		情報			
		生体情報処理特論	2		4								櫛田 大輔		情報			
		光情報処理特論	2	4									吉川 宣一		情報			
		情報通信工学特論	2	2	2								笹岡 直人		工業			
		最適化計算論	2			4							大木 誠		工業			
		システム解析工学特論	2	4									近藤 克哉		工業			
		MEMS特論	2			4							李 相錫		工業			
		固体電子工学特論	2		4								大親 光徳		工業			
		通信機器工学特論	2			4							中川 匡夫		工業			
		インターネット・クラウド技術特論	2		4								齋藤 健太郎		工業			
		画像処理工学特論	2		4								三柴 敦		工業			
	医工マイクロ・ナノ技術特論	2			4							松永 忠雄		工業				
	情報エレクトロニクス実験及び演習Ⅰ	2			4							各教員		情報				
	情報エレクトロニクス実験及び演習Ⅱ	2							4			各教員		工業				
	化学バイオコース	選択	触媒設計特論Ⅰ	1	2					2				片田 直伸	○		理科	化学バイオコースの学生は22単位以上を修得すること
			触媒設計特論Ⅱ	1	2					2				片田 直伸	○		理科	
			構造化学特論Ⅰ	1			2							南条 真佐人			理科	
			◆構造化学特論Ⅱ	1			2							南条 真佐人			理科	
			有機材料設計特論Ⅰ	1		2					2			松浦 和則	○		工業	
			◆有機材料設計特論Ⅱ	1			2				2			松浦 和則	○		工業	
			無機材料化学特論Ⅰ	1			2				2			増井 敏行	○		工業	
			◆無機材料化学特論Ⅱ	1			2				2	2		増井 敏行	○		工業	
			固体物理化学特論	1		2					2			坂口 裕樹	○		理科	
			微生物生産工学特論Ⅰ	1			2				2			大城 隆	○		工業	
			◆微生物生産工学特論Ⅱ	1			2				2	2		大城 隆	○		工業	
生分子機能工学特論Ⅰ			1	2						2			原田 尚志	○	工業			
◆生分子機能工学特論Ⅱ			1		2					2			原田 尚志	○	工業			
構造生命科学特論			1	2						2			永野 真吾		工業			
表面化学特論			2	4						4			辻 悦司	○	理科			
グリーンプロセス特論			1		2					2			赤松 允顕	○	理科			
有機金属化学特論			2		4					4			野上 敏材	○	理科			
精密合成化学特論Ⅰ			1			2					2		伊福 伸介	○	理科			
◆精密合成化学特論Ⅱ			1			2					2	2	伊福 伸介	○	理科			
機能材料化学特論Ⅰ			1		2					2			【研】森本 稔	○	工業			
◆機能材料化学特論Ⅱ			1			2				2	2		【研】森本 稔	○	工業			
電子材料化学特論Ⅰ			1			2							薄井 洋行		理科			
◆電子材料化学特論Ⅱ			1			2							薄井 洋行		理科			
界面電気化学特論Ⅰ			1	2						2			道見 康弘	○	理科			
◆界面電気化学特論Ⅱ			1		2					2			道見 康弘	○	理科			
化学生理学特論Ⅰ			1			2					2		鈴木 宏和	○	理科			
◆化学生理学特論Ⅱ			1			2				2	2		鈴木 宏和	○	理科			
超分子化学特論			2			4					4		未定	○	理科			
遺伝子工学特論Ⅰ		1			2					2		溝端 知宏	○	工業				
◆遺伝子工学特論Ⅱ		1			2					2	2	溝端 知宏	○	工業				
生体触媒機能特論Ⅰ		1		2						2		岡本 賢治	○	理科				
◆生体触媒機能特論Ⅱ		1			2					2	2	岡本 賢治	○	理科				
構造細胞生物学特論Ⅰ		1			2					2		佐藤 裕介	○	理科				
構造細胞生物学特論Ⅱ		1			2					2	2	佐藤 裕介	○	理科				
ペプチド化学特論Ⅰ		1	2						2			稲葉 央	○	工業				
◆ペプチド化学特論Ⅱ		1		2					2			稲葉 央	○	工業				
蛋白質構造機能科学特論		2		4						4		日野 智也	○	理科				
生体医学特論		2			4					4		八木 寿梓	○	工業				
生命有機分子化学特論Ⅰ		1	2						2			花島 慎弥	○	理科				
◆生命有機分子化学特論Ⅱ		1		2					2	2		花島 慎弥	○	理科				
◇化学バイオ実験及び演習Ⅰ		6			12							各教員						
◇化学バイオ実験及び演習Ⅱ		6								12		各教員						

科目 区分	単位 区分	授業科目	単位数	週授業時間数								担当教員	隔年 開講 科目	教職	備考
				1 年				2 年							
				Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4				
専門科目 展開科目 社会システム土木コース 選択		交通計画学特論	2				4					桑野 将司		工業	社会システム土木コースの学生 は18単位以上を修得すること
		品質マネジメント	2	4								南野 友香		工業	
		システム計画学特論	2		4							谷本 圭志		工業	
		地盤解析力学	2	4								小野 祐輔		工業	
		地圏情報工学特論	2				4					香川 敬生		工業	
		固体地球科学	2				4					塩崎 一郎		工業	
		海洋水産資源学	2			4						【地価】清水 他			
		構造振動学特論	2				4					谷口 朋代		工業	
		地球情報学	2				4					野口 竜也		工業	
		コンクリート物性論	2				4					黒田 保		工業	
		建設学特論	2	4								浅井 秀子		工業	
		岩盤力学特論	2	4								西村 強		工業	
		岩盤物性論	2			4						河野 勝宣		工業	
		地盤工学特論	2	4								中村 公一		工業	
		水工計画学特論	2		4							三輪 浩		工業	
		流域砂防学	2	4								和田 孝志		工業	
		海岸保全工学	2			4						黒岩 正光		工業	
		数値水理学	2				4					梶川 勇樹		工業	
		防災システム工学	2		4							太田 隆夫		工業	
		社会基盤マネジメント	2			4						江本 久雄		工業	
		環境社会デザイン論	2				4					宮本 善和		工業	
		環境システム工学	2	4								高部 祐剛		工業	
		◇社会システム土木実験及び演習Ⅰ	4						8			各教員		工業	
		◇社会システム土木実験及び演習Ⅱ	4						8			各教員		工業	
	地域経営工学特論	2				4					長曾我部 まどか		工業		
	創造地域特論	2	2	2							【地】竹内				
	地域リテラシー特論	2	2	2							【地】白石 他				

◇印の授業科目の単位の認定は、可否をもって判定する。

◆印の授業科目は該当するⅠの授業を履修していないとそれに相当するⅡの授業科目を履修することはできない。

※授業科目名に(E)の表記のあるものは、英語により開講されることを示す。

※「持続性社会創生科学概論1」と「持続性社会創生科学概論1(E)」の両方を単位修得することはできない。

※「研究者倫理」と「研究者倫理(E)」の両方を単位修得することはできない。

(1) 修了に必要な単位数は30単位以上である。

(2) 所属コース以外の展開科目を履修し修得した単位のうち、6単位以内は修了に必要な単位数に含めることができる。

(3) コース主任の許可を得て履修し修得した、本表以外の科目の単位のうち、6単位以内は修了に必要な単位数に含めることができる。

(4) 担当教員欄括弧内は、工学部以外の教員の所属を示す。

【地】地域学専攻、【農】農学専攻、【乾】国際乾燥地科学専攻、【研】研究推進機構、【地価】地域価値創造研究教育機構、【高等教育セ】高等教育開発センター、

【データ教育セ】データサイエンス教育センター

(5) 開講時期、担当教員は変更となる場合もあるので、掲示される時間割表等で確認すること。

年度鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻 研究指導計画書

【 年 月 日作成】

学 生 番 号		学 生 氏 名	
コ ー ス 名			
研 究 題 目			
指 導 教 員 氏 名	印		
研 究 計 画 ・ 指 導 計 画	研究計画 (研究概要, 学会発表, 論文作成等の計画) : 指導教員の指導の下, 学生が記入		
	指導計画 : 指導教員が記入		
特 記 事 項			

※4月末(10月入学者は10月末)までに, 学生が工学部教務係に提出してください。

年度鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻 研究指導報告書

【 年 月 日作成】

学生番号		学生氏名	
コース名			
研究題目			
指導教員氏名			
研究指導報告	(指導教員が記入)		
特記事項			

※3月末（10月入学者は9月末）までに，指導教員が工学部教務係に提出してください。

25. その他

(1) 教員名簿	-----	82
(2) 鳥取キャンパス配置図	-----	84
(3) 工学部建物配置図	-----	85

(1) 教員名簿

工学部

講座・学科		教 授 (部屋番号)	准 教 授 (部屋番号)	講 師 (部屋番号)	助 教 (部屋番号)
機械工学・応用数理工学	機械物理系学科	松野 崇 (2104)	清水 一行 (2105)		
		陳 中春 (3107)	音田 哲彦 (3106)		衣 立夫 (3113)
		小野 勇一 (2109)	西 遼佑 (2108)		
		佐藤 昌彦 (3102)			
		田村 篤敬 (7354)		本宮 潤一 (7352)	
		辻田 勝吉 (3105)		中谷 真太郎 (3104)	
		葛山 浩 (2107)			
		酒井 武治 (3108)	小田 哲也 (2106)		坂本 憲一 (3112)
			松野 隆 (3109)		
		古川 勝 (2203)			大信田丈志 (2206-1)
		灘 浩樹 (3203)	高江 恭平 (3202)		
		小谷 岳生 (1202)	榊原 寛史 (1205)		
		松岡 広成 (3208)	土井 俊行 (3205)		石川 功 (3206)
		後藤 知伸 (1208)	中井 唱 (1206)		
		原 豊 (2205)			
		知能情報工学・電気電子工学	電気情報系学科	櫛田 大輔 (2806)	竹森 史暁 (2804)
吉川 宣一 (1505-1)					藪田 義人 (1504-4)
川村 尚生 (3804)	高橋 健一 (3802)				
	東野 正幸 (3805)				
村田 真樹 (1509)	村上 仁一 (1504-1)				
吉村 和之 (4803)	清水 忠昭 (4802)				
木村 周平 (4808)				徳久 雅人 (4805)	
岩井 儀雄 (4204)	青木 工太 (4203)				
西山 正志 (1803)					井上 路子 (1506)
近藤 克哉 (7504)					小山田 雄仁 (7509)
笹岡 直人 (7508)					
中川 匡夫 (7507)					藤村喜久郎 (7505)
					白岩 史 (7506)
齋藤 健太郎 (7406)	三柴 数 (7407)				
中西 功 (7408)	大木 誠 (7405)				
大観 光徳 (7305)	西村 亮 (7409)				
市野 邦男 (7303)	阿部 友紀 (7304)		赤岩 和明 (7306)		
李 相錫 (7308)	松永 忠雄 (7307)				

講座・学科		教 授 (部屋番号)	准 教 授 (部屋番号)	講 師 (部屋番号)	助 教 (部屋番号)
応用化学・生物応用工学	化学バイオ系学科	野上 敏材 (2310)			佐々木 紀彦 (2311)
		伊福 伸介 (2305)		赤松 允顕 (2304)	
		片田 直伸 (4305)	辻 悦司 (4304)		
		増井 敏行 (4312)			山口 和輝 (4315)
		坂口 裕樹 (4307)	薄井 洋行 (4313)		
			道見 康弘 (4311)		
		松浦 和則 (2307)	稲葉 央 (2306)		
		南条 真佐人 (4306)			
		大城 隆 (3304)	鈴木 宏和 (3303)		
			八木 寿稔 (3310)		
		溝端 知宏 (3305)		青木 英莉子 (3306)	本郷 邦広 (3308)
		花島 慎弥 (1309)			佐々木 克聡 (1308)
		岡本 賢治 (3312)	原田 尚志 (3311)		
		永野 真吾 (1311)	日野 智也 (1310)		
			佐藤 裕介 (1312)		
土木工学・社会経営工学	社会システム土木系学科	谷口 朋代 (1707)	野口 竜也 (3601)		
		小野 祐輔 (4605)	河野 勝宣 (7652)		
		三輪 浩 (3403)	和田 孝志 (3402)		
		黒田 保 (3607)			金氏 裕也 (3606)
		黒岩 正光 (3404)	梶川 勇樹 (3405)		
		西村 強 (7651)	中村 公一 (7653)		
		香川 敬生 (7252)	塩崎 一郎 (1605北)		
		浅井 秀子 (3504)			
		桑野 将司 (3508)	南野 友香 (3510)		細江 美欧 (3513)
		谷本 圭志 (2510)	長曾我部 まどか (2508)		
		福山 敬 (3506)			吉野 和泰 (3515)
		太田 隆夫 (4704)	江本 久雄 (4416)		福井 信気 (4401)
		宮本 善和 (4507)	高部 祐剛 (4505)		河野 誉仁 (4516)

センター名称	教 授 (部屋番号)	准 教 授 (部屋番号)	講 師 (部屋番号)	助 教 (部屋番号)
ものづくり教育実践センター				影山 智明



鳥取大学

鳥取地区キャンパスマップ

湖山池

野球場

陸上競技場

ラグビー場
サッカー場

湖山川

附属学校
運動場

附属中学校

附属小学校

サークル部室

バードピア

第2体育館

第1体育館

武道館

学生会館

共通教育棟

時計台

地域学部

広報センター

芸術文化センター

教員養成センター

タクシ乗り降場

警務員室

正門

ゲート 入口

P 第1駐車場

出口

湖山クラブ

弓道場

テニスコート

大瀬段古墳

フィールド
サイエンスセンター

動物医療センター

三浦古墳

農学部・大学院連合農学研究所

図書館

ベンチャービジネス
ラボラトリー

農学館

工学部

保健管理センター

事務局

研究推進機構・
地域価値創造研究教育機構

納品検収センター

ゲート 出口

P 第2駐車場

米子方面

JR山陰本線

JR鳥取大学前駅

西門
ゲート

ものづくり
教育実践センター

情報戦略機構

函類きのこ
遺伝資源研究センター

農場

農場

農場

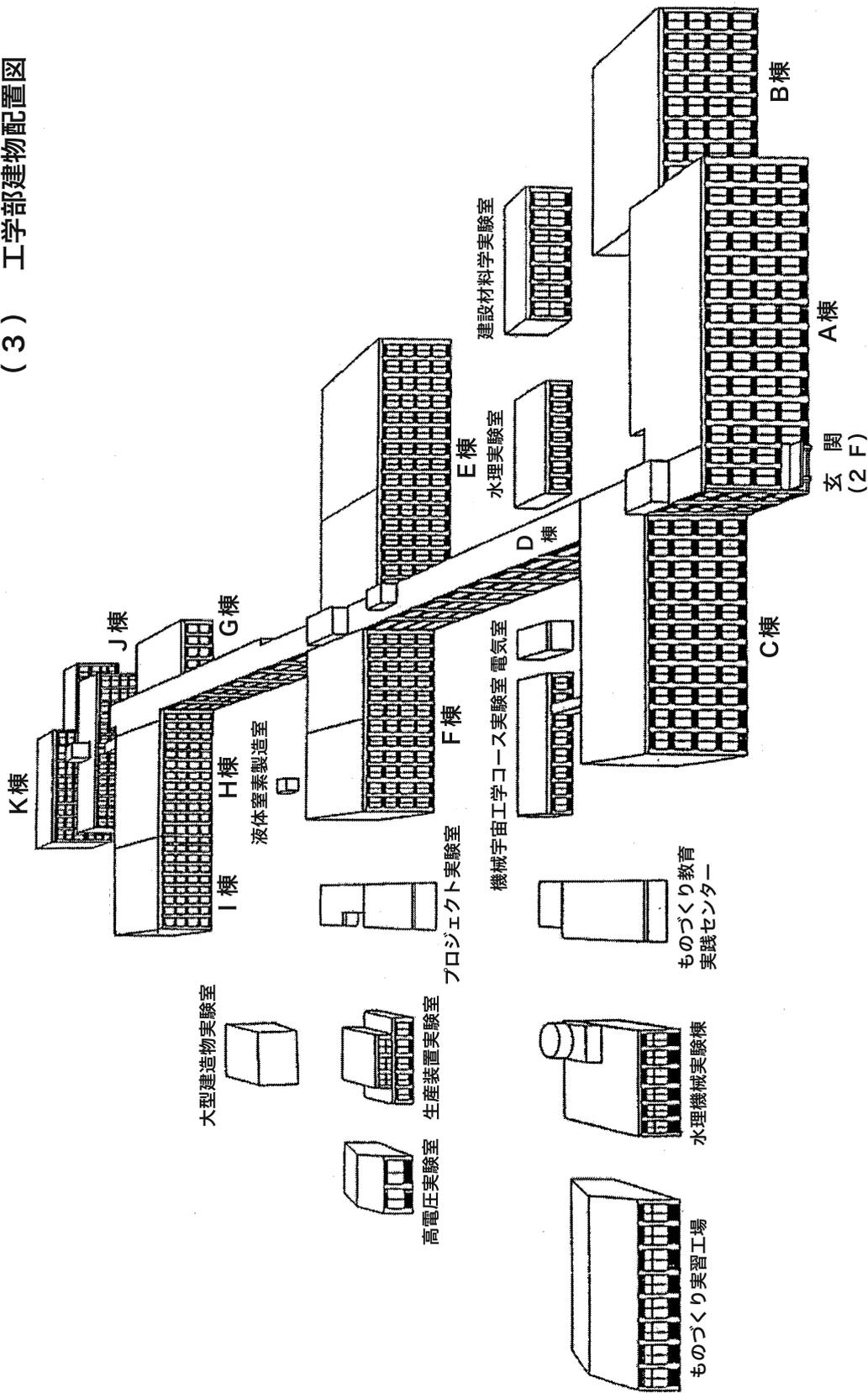
農場

農場

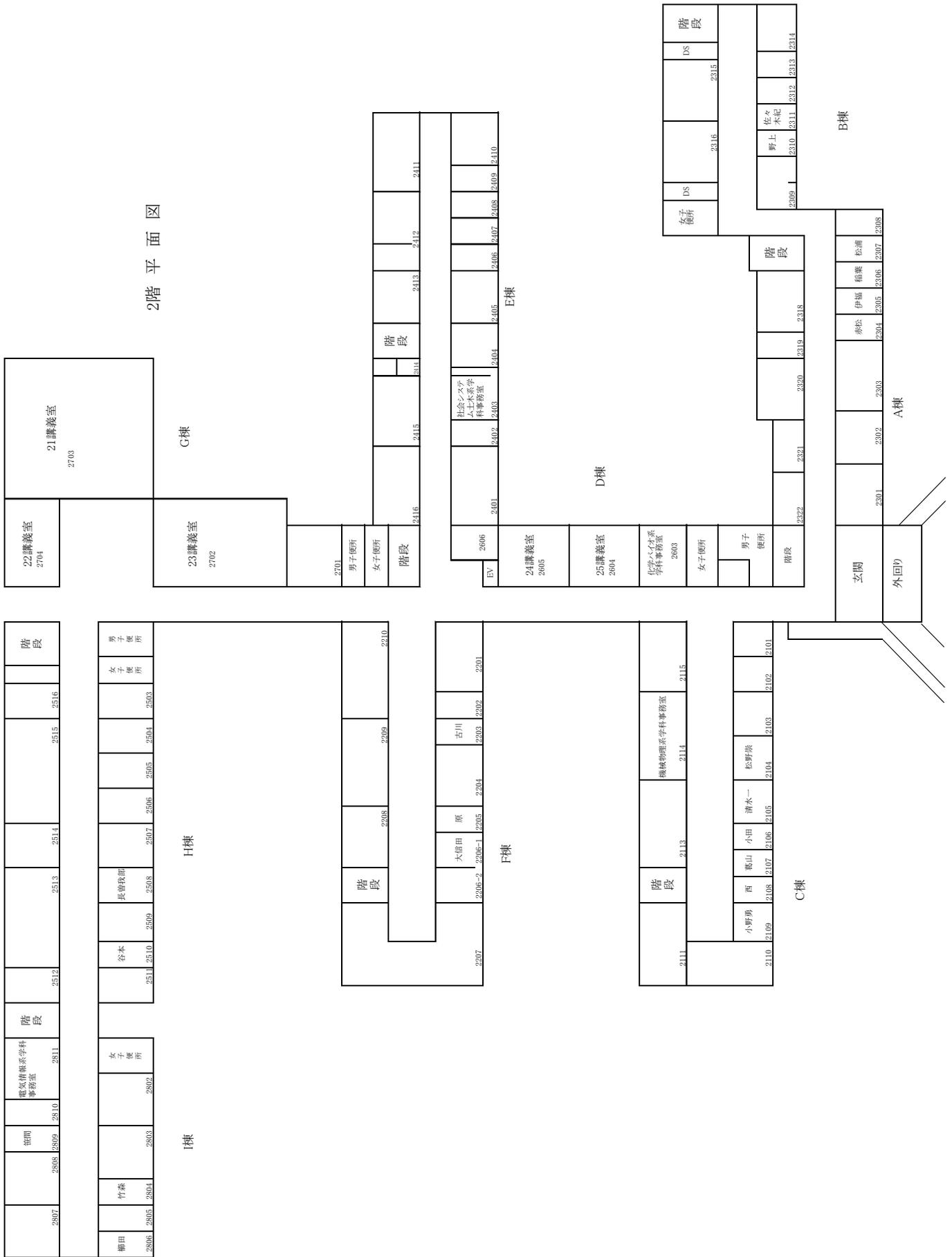
農場

農場

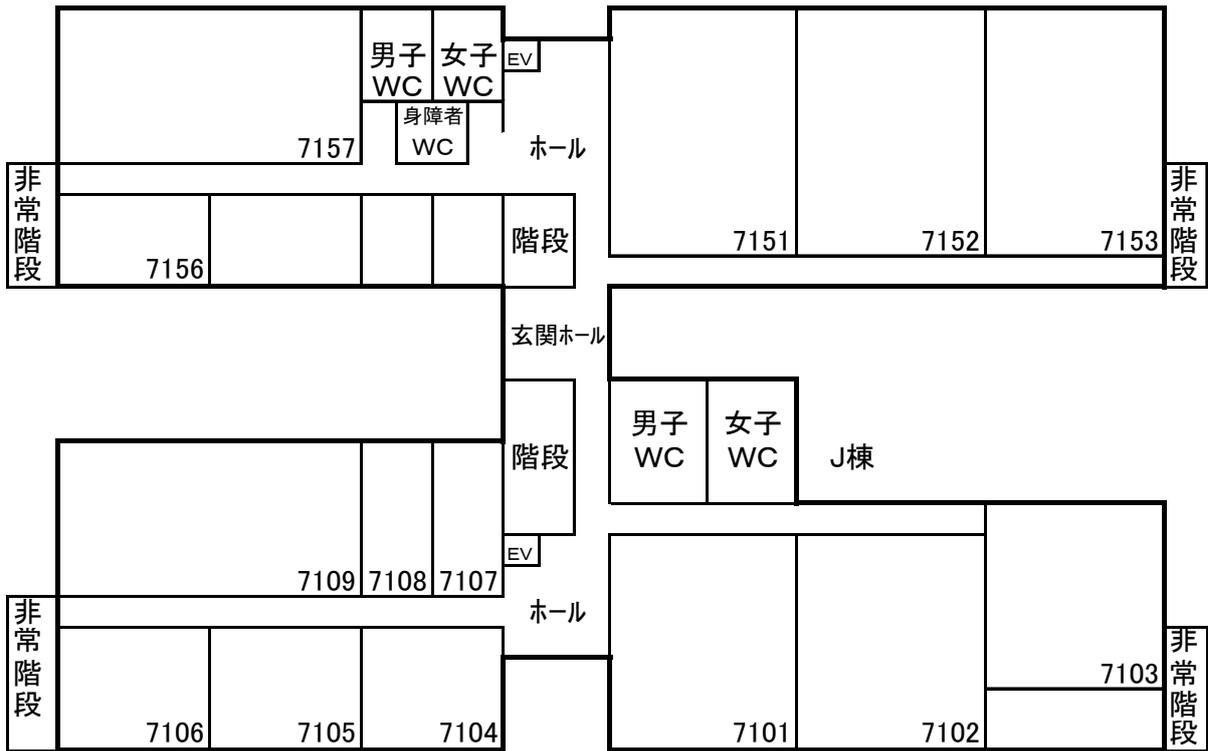
(3) 工学部建物配置図



2階平面図

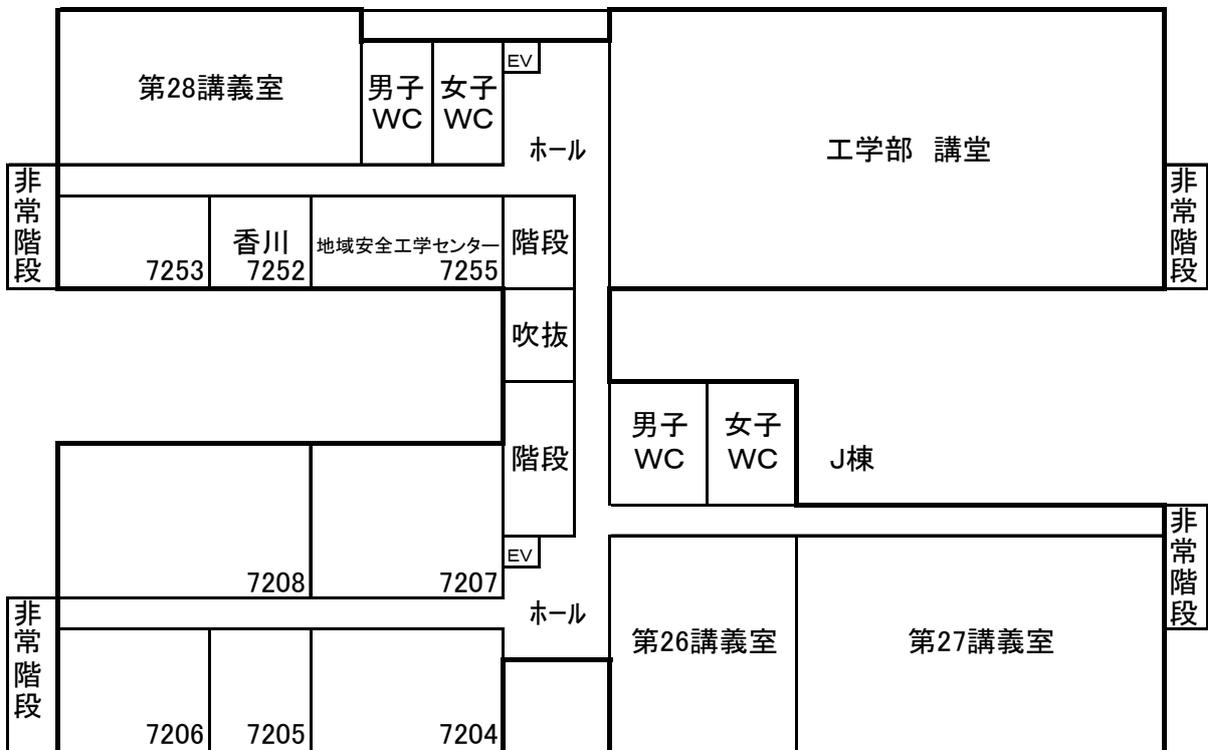


K棟



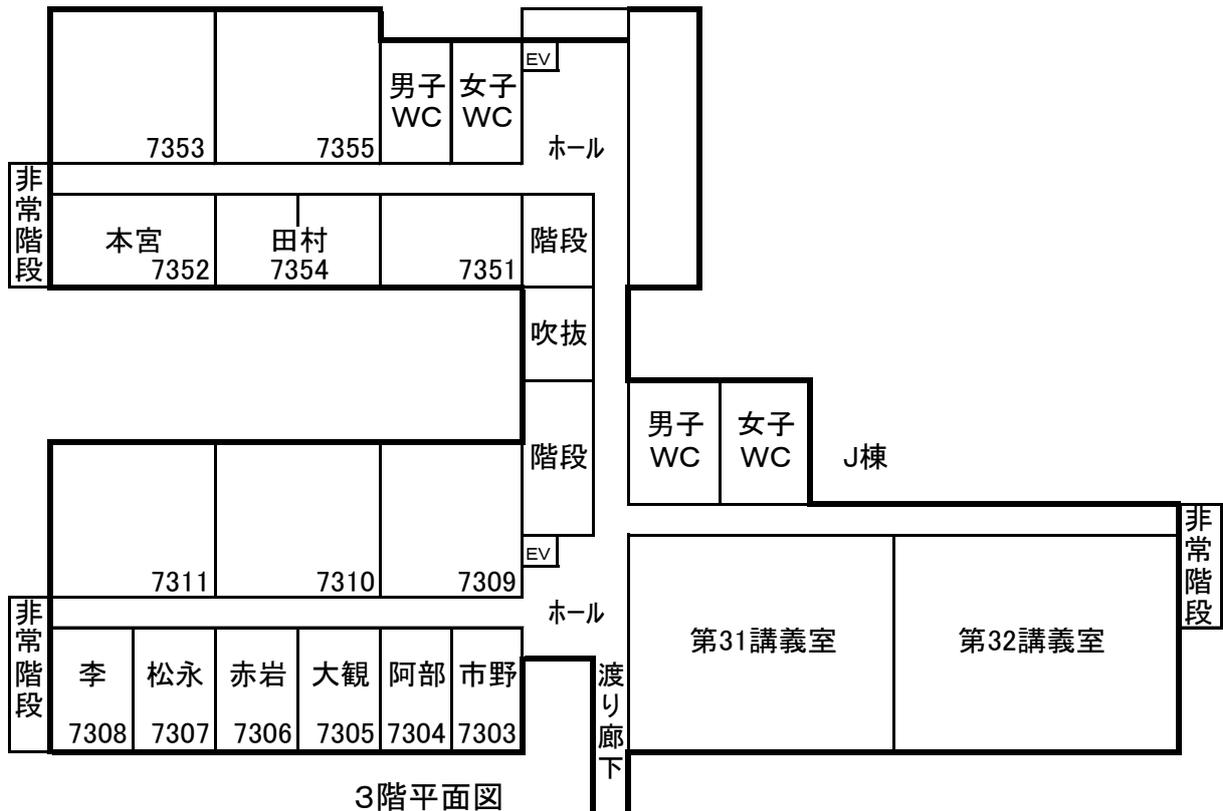
1階平面図

K棟

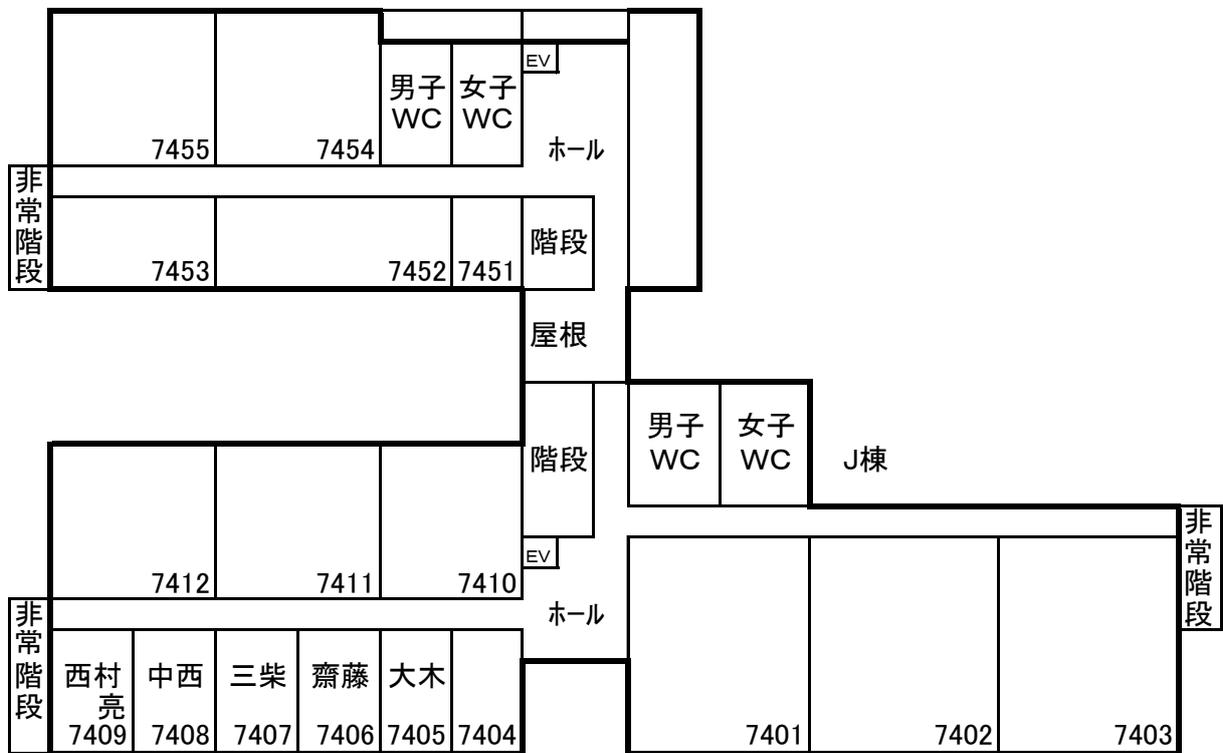


2階平面図

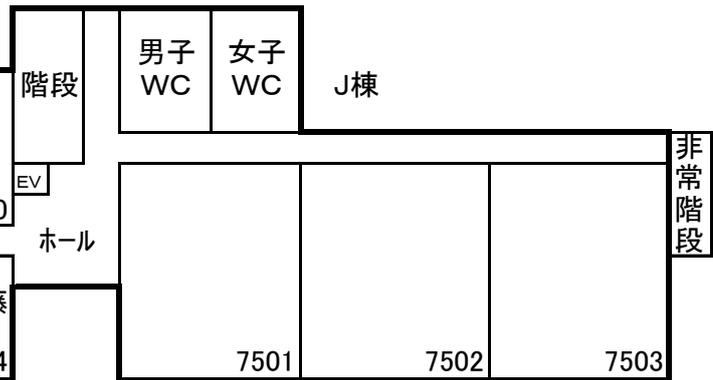
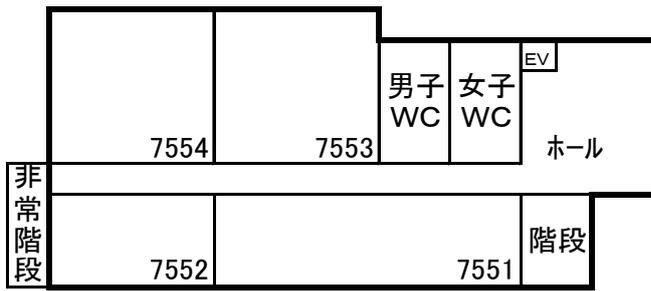
K棟



K棟

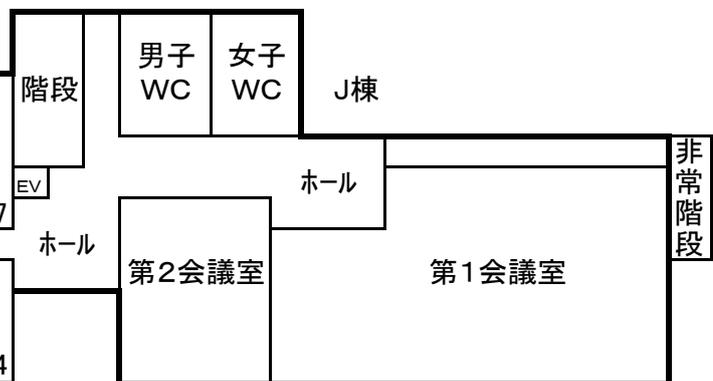


K棟



5階平面図

K棟



6階平面図

